

タイ王国貿易研修センター技術協力事業 巡回指導調査団報告書

昭和 61 (1986) 年 11 月

国際協力事業団

鉦開技

J.R

86-182

タイ王国貿易研修センター技術協力事業
巡回指導調査団報告書

JICA LIBRARY



1017336E7J

昭和 61 (1986) 年 11 月

国際協力事業団

国際協力事業団		
受入 月日	'87.5.9	122
登録 No.	16301	29.8
		MIT

はしがき

タイ国政府は、1981年10月より始まった第5次国家経済社会開発計画において、輸出指向産業の育成により、貿易収支の改善を図ることを重点施策の1つとして掲げ、貿易実務に関する計画的な研修による人材の育成、輸出製品の品質管理技術の向上、さらにタイ商品の展示能力の向上による新市場の開拓、輸出拡大を目的とする「貿易研修センター」構想を打ち出し、わが国に対し無償資金協力及び技術協力を要請してきたものである。

当事業団はこれを受けて、1982年9月～10月に事前調査団を派遣したのに続いて1983年8月～9月にかけて実施協議調査団を派遣し本件技術協力の実施に関する合意議事録(R/D)に署名した。

この実施計画に基づいて、当事業団は、1984年8月に計画打合せチームを派遣し、また、技術協力専門家の派遣、機材の供与、研修員の受入などの協力を今日まで実施してきた。

今回の巡回指導チーム派遣の目的は、以上の経緯を踏まえ、現在までの協力実績の確認、プロジェクト終了時までの実施計画の策定などであり、本報告書は同チームがタイ側と協議した内容等についてまとめたものである。

同チーム派遣に際しご協力を頂いた外務省、通商産業省、農林水産省の関係各位に感謝を申し上げますとともに、現地でご支援頂いた在タイ大使館及びタイ政府関係機関の方々に深甚なる謝意を表する次第である。

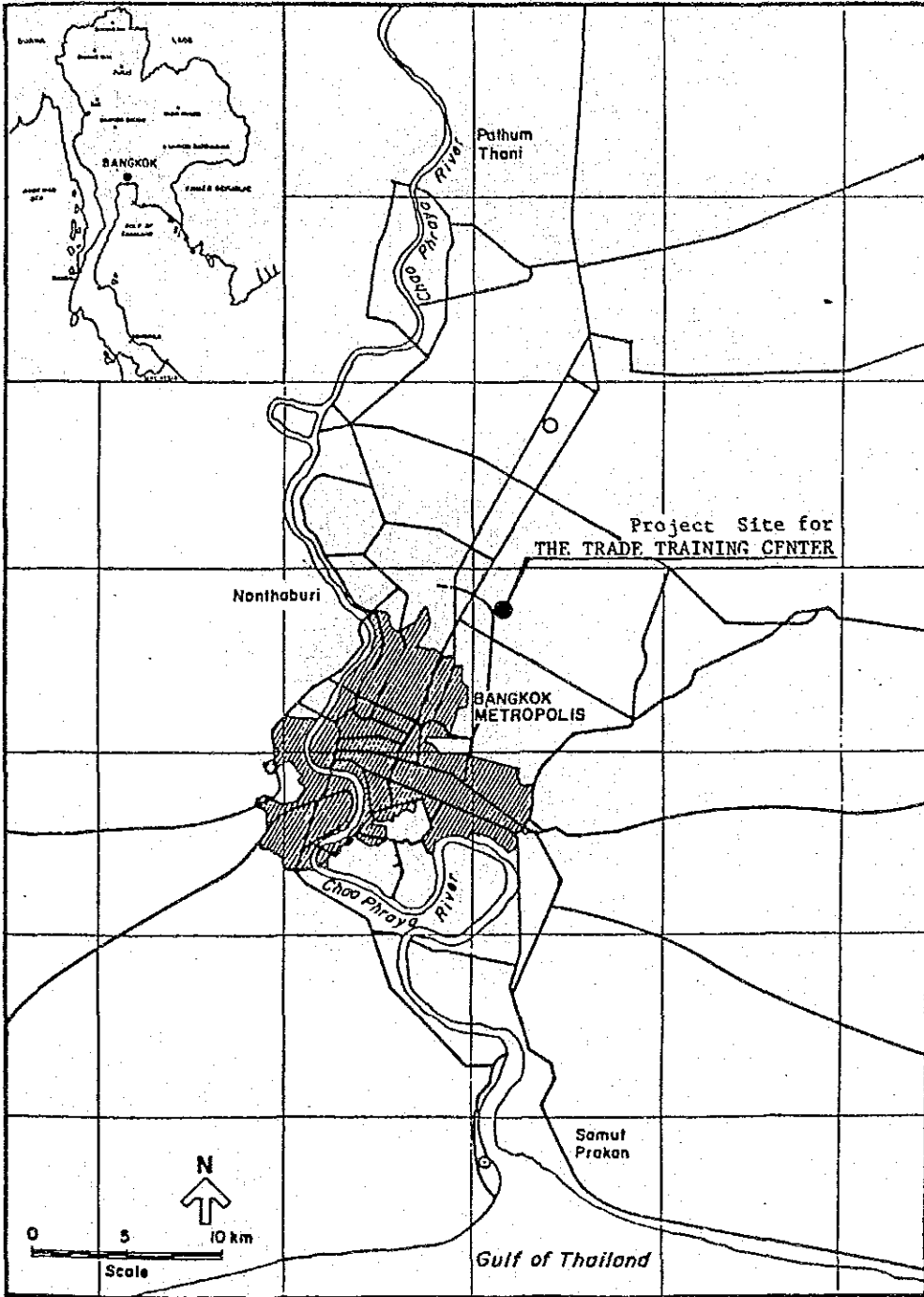
1986年11月

国際協力事業団

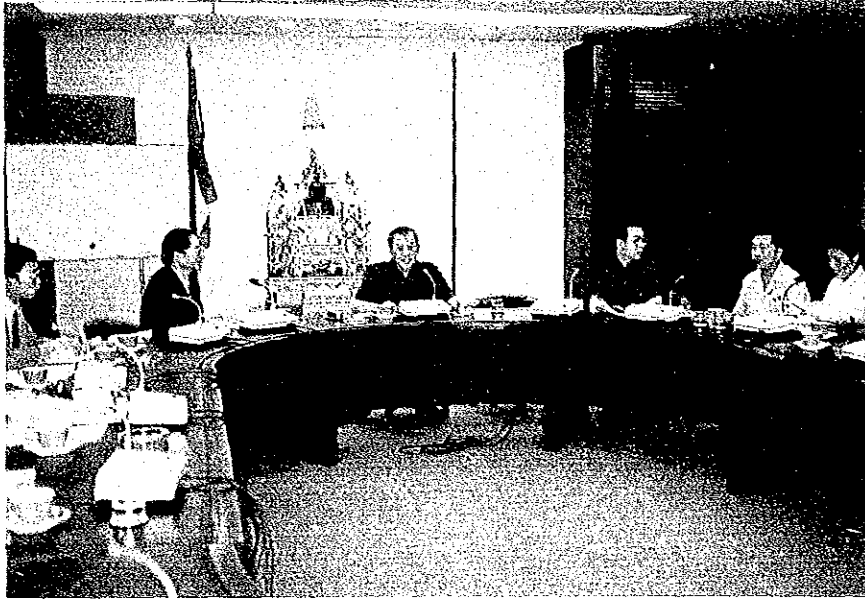
鉦工業開発協力部長

北村俊男

タイ王国貿易研修センター位置図



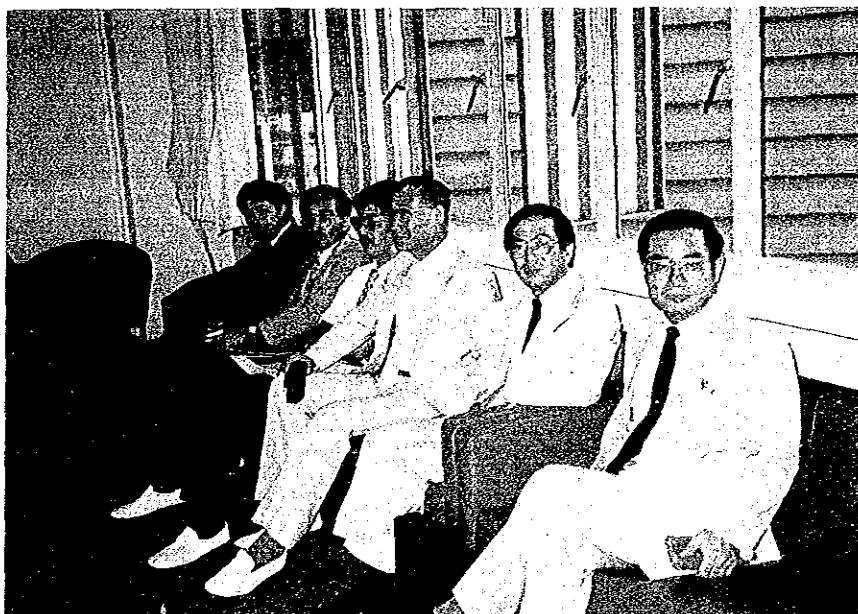
所在地 22 / 77 RACHADAPISEK ROAD, LARD PRAO
BANGKAEN DISTRICT, BANGKOK 10900



DEP局長等との協議



ミニッツ署名交換



TTC 専門家

(右手前から)

與口専門家(貿易実務・国際金融)

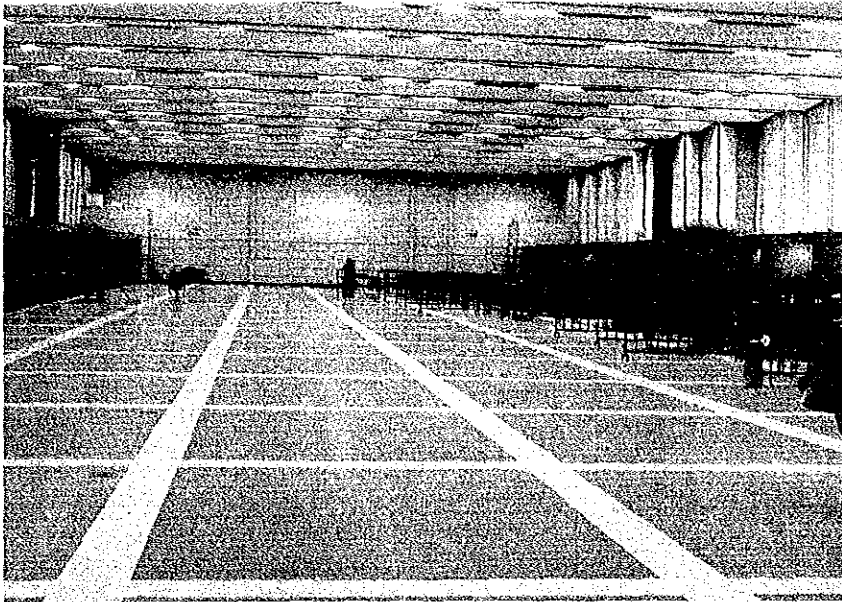
青沼 " (チームリーダー)

加賀 " (規格品質管理(農))

塚越 " (" (工))

三木 " (" (工))

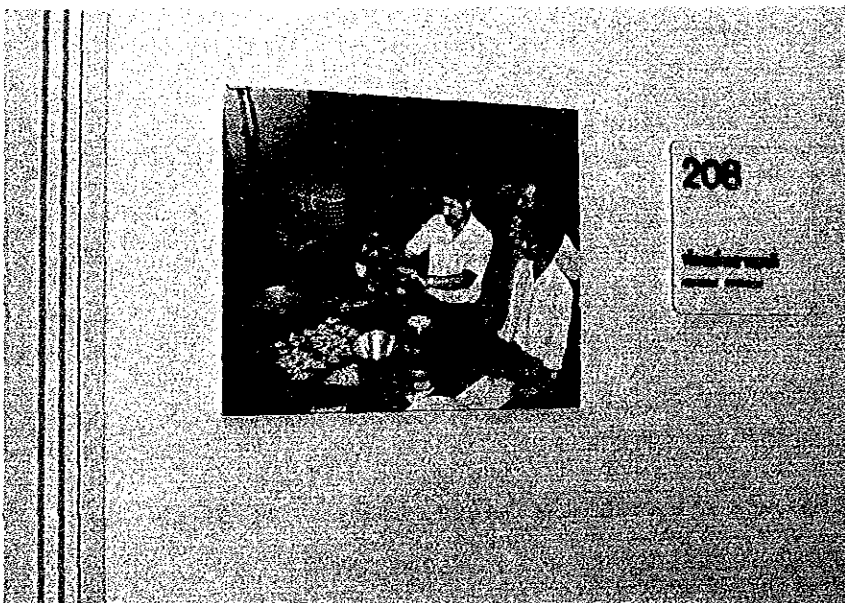
梅野 " (" (農))



展示場全景



教材類



研修風景を写したパネル

目 次

I	タイ貿易研修センタープロジェクトの概要	1
I-1	プロジェクトの目的	1
I-2	プロジェクトの背景	1
I-3	プロジェクトの経緯	1
II	巡回指導チーム派遣	2
II-1	派遣の目的	2
II-2	チームの業務内容	2
II-3	調査団の構成	2
II-4	調査日程	3
II-5	主な面談者	3
III	調査結果	5
III-1	プロジェクトの実施状況	5
	(1) 協力相手機関	5
	(2) 協力機関	5
	(3) これ迄の協力実績	5
	① 長期専門家派遣	5
	② 短期専門家派遣	5
	③ 研修員受入	7
	④ 供与機材	8
	⑤ 携行機材	8
	⑥ 無償資金協力	8
	⑦ センタースタッフ配置状況	9
	⑧ 商務省における本プロジェクト関係機関 (TTC-OCS)	9
	⑨ センター運営予算	12
	⑩ カウンターパート配置状況	14
III-2	センター活動状況	15
	(1) 概況	15
	(2) 総合所感	15

IV	現在までの協力実績の評価	16
IV-1	主な留意点	16
	(1) スタッフィングについて	16
	(2) 機材について	16
IV-2	結 論	16
	(1) 1.について	16
	(2) 2.について	16
	(3) 3.について	16
	(4) 4.について	17
V	協力期間終了時(昭和62年9月)までの協力計画	18
VI	今後の留意点	19
VII	貿易研修	48
VIII	展 示	49
IX	規格品質管理(工業産品(繊維))	50
IX-1	本分野技術協力の経緯	50
IX-2	技術協力の進捗状況	51
	(1) 資料・教材等の作成状況	51
	(2) コース運営の現状	52
	(3) 機材の活用状況及び管理状況	53
	(4) 技術移転の達成度	54
	(5) カウンターパートの配置と人数	55
X	規格品質管理(農産品)	56
X-1	対象品目に対する検査研修の実施状況	56
	(1) 研修品目	56
	(2) 研修状況	56
	(3) 今後の研修方法	56
	(4) 予定されるステップⅢの研修項目	56

X-2	コース開催頻度	57
X-3	技術移転の達成状況	57
X-4	カウンターパートの配置及び人員	58
	(1) カウンターパート(コーディネイト)	58
	(2) 研修生(テクニカルカウンターパート)	58
X-5	機材メンテナンス要員の有無	58
	(1) メンテナンス要員	58
	(2) 機材の整備経費	58
X-6	機材の活用及び維持管理状況	58
 (資料)		
	カリキュラム 教材等一覧	59

別 添 DEP' S mission
 JOINT PRE-EVALUATION REPORT
 MINUTES OF THE MEETING

I タイ貿易研修センタープロジェクトの概要

I-1 プロジェクトの目的

タイ国の貿易振興を図るため、無償資金協力によって設置された「貿易研修センター」に於いて、貿易実務に精通した人材の養成・及びタイ国の主要輸出産品の品質向上を目指す為の規格品質管理技術の指導・移転を行なう。

I-2 プロジェクトの背景

タイ国は、貿易収支の改善を目指し、貿易振興に重点を置いた第5次国家経済社会開発計画を81年10月から実施しているが貿易に携る人材が不足しており、又、主要輸出産品の規格及び品質も国際水準に達していない状態であった。このためタイ国政府は、①国際貿易実務に精通した人材の養成 ②輸出産品の規格・品質を検査する人材の養成 ③輸出産品の展示・広報を行なう「貿易研修センター」の設立を計画し我々国に対し、無償資金協力及び技術協力の要請をしてきたものである。

I-3 プロジェクトの経緯

昭和56年度日・タイ技術協力年次協議において、タイ側より貿易研修センター設立に係る協力要請がなされ以後下記の経緯をたどっている。

(1) 無償資金協力

イ) 基本設計調査に先立つ事前調査団	昭和57年1月
ロ) 基本設計調査団	" 2月
ハ) 交換公文(E/N)	" 6月

(2) プロジェクト方式技術協力

イ) 事前調査団	昭和57年9月～10月
ロ) 実施協議調査団	昭和58年8月～9月
ハ) R/D署名	昭和58年9月5日
ニ) 計画打ち合せチーム	昭和59年8月

(3) 建屋完成

昭和58年12月

II 巡回指導チーム派遣

II-1 派遣の目的

- (1) R/Dによる協力期間が残り約11ヶ月であり、現在までの本プロジェクトの進捗状況を調査しプレ・エバルエーション・レポートにまとめ署名を行う。
- (2) 協力期限(昭和62年9月4日)までR/Dで計画された技術協力計画を達成すべく、その具体化についてタイ側と協議し、今後の活動計画を作成して署名を行なう。

II-2 チームの業務内容

- (1) 技術協力実績の調査及びTTC活動実績に対するレビューを行なう
- (2) R/D上計画された技術協力目的に対する61年度Annual Work Planの位置付の明確化及びその実施可能性の調査を行なう
- (3) プロジェクト推進上の問題点の調査及び解決策を協議し、これらを取りまとめミニッツに署名する。
- (4) 同時にプロジェクト終了時までの技術協力計画を作成し上記(3)のミニッツの中に含める。
- (5) 供与された機材について、その使用状況を調査する

II-3 調査団の構成

分 担	氏 名	所 属
団長 総 括	飯 村 圭 司	国際協力事業団 鉾工業開発技術課長
団員 貿 易 研 修	徳 増 有 治	通産省通商政策局 経済協力課課長補佐
団員 規格品質管理 (工業製品)	所 村 利 男	通産省生活産業局 総務課繊維企画官付係長
団員 規格品質管理 (農産品)	丸 山 憲 夫	農水省食糧庁 検査課係長
団員 業 務 調 整	菅 野 光 洋	国際協力事業団 鉾工業開発技術課

II-4 調査日程

日順	月 日	曜日	午前・午後	業 務 内 容
1	10/21	火		移動日(東京～バンコック)
2	22	水	午 前	JICA事務所長表敬・打合せ 日本大使館表敬・打合せ DTEC(総理府技術経済協力局)表敬 OCS(商務省商品規格事務所)表敬
			午 後	TTC(貿易研究センター)表敬 DEP(商務省輸出振興局)表敬 専門家との打ち合わせ
3	23	木	午前・午後	専門家との打ち合わせ
4	24	金	午 前	DEPとの協議
			午 後	TTCとの打ち合わせ
5	25	土		資料整理・専門家との打ち合わせ
6	26	日		〃
7	27	月	午 前	専門家との打ち合わせ
			午 後	ミニッツ, プレ・エバルエーションレポート署名 JICA事務所・大使館報告
8	28	火		移動日(バンコック～東京)

II-5 主な面談者

(1) タイ側関係者

DEP : Director General

Mr. Chare Chutharatkul

DEP : Deputy Director General

Mr. Chachaval Sukitjavanith

TTC : Director

Ms. Kanchana Prasong

TTC : Head of Training Administration Section

Mr. Niyom Nipatsant

TTC : Head of Products Adaptation & QC Section

Ms. Duangmal Hoontrakul

OCS : Director

Mr. Pathom Panijayanusonhi

DTEC : Director Japan Sub-Division

Mr. Sutin Susila

DTEC : Japan Sub-Division

Mr. Pailin Pairoh

(2) 日本関係者

1. 日本大使館

知久 多喜真 一等書記官

永山 勝行 "

2. JICAタイ事務所

後藤 教基 所長

四釜 嘉總 所員

3. JICA TTC 専門家

青沼 浄 三木 常秀

加賀 靖二 塚越 郁夫

與口 勝海 大竹 正治

梅野 吉告

Ⅲ 調査結果

Ⅲ-1 プロジェクト実施状況

(1) 協力相手機関：タイ商務省 輸出振興局

(2) 協力期間：R/D署名から4年間

昭和58年9月5日から

昭和62年9月4日まで

(3) これ迄の協力実績

① 長期専門家派遣（△は下記リストのとおり）

	1984	'85	'86	'87
チームリーダー	① ←		△ →	
調整員	② ←		△ →	
貿易研修 (マーケティング)	③ ←		→	
貿易研修 (国際金融)		④ ←	→	
規格品質管理 (農産品)	⑤ ←		→	
"		⑥ ←	△ →	
"			⑦ ←	→

② 短期専門家派遣（△は下記リストのとおり）

貿易研修 (日本語)		⑧ →		
規格品質管理 (工業産品)	⑨⑩ ↔	⑪⑫ ↔	⑬⑭ ↔	
規格品質管理 (農産品)	⑤⑥ ←	⑬ ←	⑬ ←	
展 示	⑭ ↔	⑮ ↔		

№	氏名	分野	所属先	派遣期間
1	*青 沼 淨	チームリーダー	貿易研修センター	84. 4.27~87. 9. 5
2	*大 竹 正 治	調 整 員	国際協力サービスセンター	84. 1.25~87. 9. 5
3	小 泉 允 雄	貿 易 研 修 (マーケティング)	日本貿易振興会	84. 4.27~86. 4.26
4	*與 口 勝 海	貿 易 研 修 (国際金融)	㈱三井銀行	84.12.15~86.12.14
5	石 井 和 行	規 格 品 質 管 理 (農 産 品)	食 糧 庁	84. 1.25~84. 2. 8 84. 4.27~86. 4.26
6	*加 賀 靖 二	"	" (84.10退職)	84. 1.25~84. 2. 8 84.10.22~87. 9. 5
7	*梅 野 吉 告	"	"	86. 4.14~87. 9. 5
8	中 島 清	貿 易 研 修 (商業日本語)	海外技術者研修協会	85. 6.18~86. 1.16
9	鷺 坂 和 美	規 格 品 質 管 理 (工業産品)	通商産業検査所	84. 4.27~84. 7.26
10	*三 木 常 秀	"	"	84. 4.27~84. 7.26 86. 8. 1~86.11.15
11	*塚 越 郁 生	"	"	85. 4.21~85. 7.19 86. 8. 1~86.11.15
12	加 藤 稔	"	"	85. 4.21~85. 7.19
13	松 原 伊左夫	規 格 品 質 管 理 (農 産 品)	東京肥飼料検査所	85. 1. 5~85. 3.16 86. 1.31~86. 4.10
14	東 博 暉	展 示	日本貿易振興会	84. 8.18~84.11.16
15	小 山 巖	"	"	85. 8.12~85.11. 9

・ *印は61.10.1現在在籍者

・ 青沼リーダー及び大竹調整員はそれぞれ86/4・86/1にプロジェクト終了時まで任期延長

・ 61年10月1日現在の実績(述べ人数)

長期専門家派遣実績 7名

短期 " 13名

③ 研修員受入（※は下記リストのとおり）

	1984	'85	'86	'87
貿易研修	① ←	⑤ ↔ ⑥ ↔ ⑦ ↔		↔
規格品質管理 （工業産品）	② ←		⑩ ←	↔
規格品質管理 （農産品）	④ ←		⑪ ←	↔
展 示	③ ←		⑨ ←	
商業日本語			⑧ ←	

№	氏 名	分 野	期 間
1	Mr. Phatai Sooksommai	貿易研修	84. 4. 1~84. 5. 31
2	Ms. Suwimol Tikinanond	規格品質管理 （工業産品）	84. 6. 14~84. 8. 21
3	Mr. Sawek Sakdarak	展 示	84. 7. 26~84. 9. 5
4	Mr. Trairat Hongsuwong	規格品質管理 （農産品）	84. 10. 8~84. 12. 14
5	Mr. Chavalit Rojjanaprapayon	貿易研修	85. 2. 14~85. 5. 13
6	Mr. Surasakdi Sukhopala	”	”
7	Mr. Vorapote Wougraseritphol	”	”
8	Ms. Amornrat Tarnrevadee	商業日本語	85. 10. 24~86. 4. 29
9	Ms. Vantanee Kuachati	展 示	85. 11. 12~85. 12. 17
10	Mr. Pichet Intarapanich	規格品質管理 （工業産品）	85. 11. 12~85. 12. 17
11	Mr. Chinaratana Sawatipanee	規格品質管理 （農産品）	85. 12. 4~86. 2. 14

- ・ 60年度まで述べ11名受入れ
- ・ 61年度予定
 - 規格品質管理（農産品） 2名
 - （3名） 規格品質管理（工業産品） 1名
- ・ 62年度予定
 - 貿易研修 1名
 - （2名） 規格品質管理（農産品） 1名

④ 供与機材

(単位百万円)

年 度	機 材 名	金 額
59年度	マイクロコンピューター	6.2
60年度	トランスペアレンシー複写機 レタリングシステム A V機器	2.2
61年度	A V機器 Q C 機器等	(予算) 1.5
62年度	スペアパーツ	(予算) 1.0

⑤ 携行機材

(単位百万円)

年 度	機 材 名	金 額
59年度	専門書 繊維理化学分析用試薬 シリンダー・フラスコ等検査機器 穀粒水分測定器 粗繊維定量装置	5.3
60年度	専門書 真空ポンプ 鑑定用照明器 穀粒粒度選別器	4.7

⑥ 無償資金協力

施 設 …… 敷地 8,800 m² 延床面積 5,021 m²
 機 材 …… L. L. 事務機・試験機
 金 額 …… 約 1.5 億円

⑦ センタースタッフ配置状況

現行のスタッフ配置状況は、以下のとおり（別紙参照）

所長	1名
規格品質管理部門	3名
研修・セミナー部門	4名
研修管理部門	3名
総務部門	5名
<hr/>	
計	16名

⑧ 商務省における、本プロジェクト関係機関（TTC・OCS）は以下のとおり。

The Organization of The Trade Training Division

Trade Training Division

Ms. Kanchana Prasong
Director

Products Adaptation & QC Section

- MRS. DUANGMAL HOONTRAKUL
Senior Trade Officer
- Mr. SOMDET SUSOMBOON
Trade Officer
- MR. SANGUANSAK PHONPALAHARN

Training and Seminar Section

- MRS. UBOLPHAN KLYKOOO
Senior Trade Officer
- MS. CHINTANA DAENGPRASERT
Senior Trade Officer
- MS. VANTANEE KUACHATI
Senior Trade Officer
- MRS. JIRAPAPHAN VORAPONGSE
Public Relations Officer

General Affairs

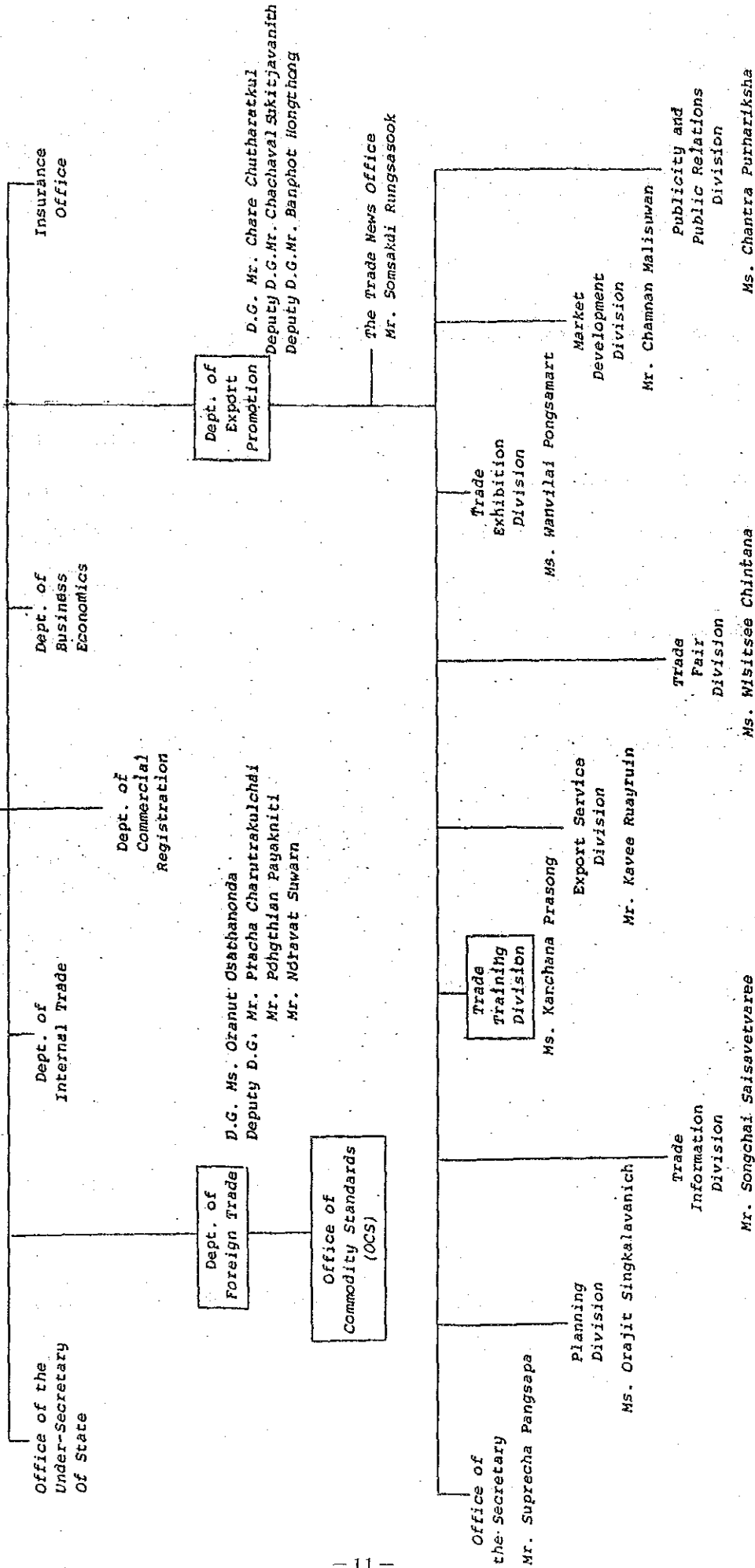
- MRS. SUPATTRA SWANGCHANG
General Affairs Officer
- MS. ROJANA BOONMA
General Affairs Officer
- MS. PACHAREE NARKSAWAT
General Affairs Officer
- MS. PORNTIP KRONGSAKSREE
General Affairs Officer
- MRS. SOMMAI KAEWBANTRUD
Custodian

Training Administration Section

- MR. NIYOM NIPATSANT
Senior Trade Officer
- MS. AMORNAT TARNREVADEE
Trade Officer
- MR. RUANGSAK THONKLAHAN
General Affairs Officer

Ministry of Commerce Mr. Surdt Osathanugrah

Office of the Secretary to the Minister



⑨ センター運営予算

1984年10月～'85年9月までのセンターの収支は以下のとおり（人件費・機
材費は、輸出サービス部と一緒に計上されている。

Department of Export Promotion (Oct. '84 -- Sep. '85)

Total Amount	67,396,900	Baht	(100%)
1. General Administration	13,213,200	Baht	(19.6%)
2. Trade Promotion (domestic)	5,399,000	Baht	(8.0%)
3. Information Service' & Publicity	3,917,500	Baht	(5.8%)
4. Market Expansion & TTC	44,867,200	Baht	(66.6%)

Break down of item 4) Market Expansion & TTC : 44,867,200 Baht

	Export Service Div. & Trade Training Div.		Overseas Marketing
personnel salary	2,813,000 (71.6%)		11,394,000 Baht
- do.- (temporary)	---		5,078,000 Baht
materials & equipment	782,800 (19.9%)		14,063,400 Baht
utility charges	---		1,048,000 Baht
construction, repair & maintenance	44,000 (1.1%)		575,000 Baht
expenses from subsidy	---		1,200,000 Baht
others	289,000 (7.4%)		7,580,000 Baht
sub total	3,928,800 (100%)		40,938,400 Baht

TTC Expenses

A) Training and Seminar (Oct. '84 -- Sep. '85)

Seminar project (15 projects)	238,445	Baht
Training project (10 projects)	175,758	Baht
<hr/>		
Total	414,203	Baht

B) Utility (Oct '84 -- Sep. '85)

Water	144,165	Baht
electricity (including electricity charge of the Printing Shop)	1,445,112	Baht

⑩ カウンターパート配置状況

現行のカウンターパート配置状況は以下の通り

October 1986

Counterparts List of TTC Project

1. Project Coordinator

1. Ms. Duangmal Hoontrakul (QC)
2. Mr. Somdet Susomboon (general)

2. Trade Training
International Finance

1. Ms. Ubolphan Klykoom
2. Ms. Vantanee Kuachati

3. Quality Control & Standardization

A. Agricultural Products

1. Mr. Chinaratana Sawatdipanee
2. Mr. Somsak Tanasupawat
3. Ms. Jintana Nateesatitarn (maize)
4. Ms. Nongnoct Singhaphandhu (- do.-)
5. Ms. Suree Viriyakitpatana (sorghum)
6. Ms. Wanna Kongcharoenchittikul (- do.-)
7. Mr. Suchart Arunakul (tapioca)
8. Mr. Khanittha Virattanapanu (- do.-)
9. Mr. Suvit Rujirayanyong (mung beans)
10. Ms. Patra Kupapithayanan (- do.-)
11. Mr. Bundit Phurkhao (kenaf & jute)
12. Mr. Weerachai Nopsuwanvong (kapok)
13. Mr. Piyachart Supanagula (fish meal)

B. Industrial Products (Textile)

1. Mr. Amarin Kongpun
2. Mr. Pichet Intarapanich
3. Ms. Porntip Sritalanonda

Ⅲ-2 センター活動状況

(1) 概況

本プロジェクトは、昭和58年9月の協力開始より既に3年が経過した。その間、昭和61年4月に協力相手機関である商務関係局が英文のみ従来のDepartment of Commercial RelationsからDepartment of Export Promotion（輸出振興局）と変更された。この名称変更に伴ない、機構も改革されTrade Training Centerは課レベルの名称統一により、内部組織的にはTrade Training Divisionになった。新らしく、Product Adaptation Sectionも、ここに含まれると同時に大幅な人事異動が実施され、所長以下、庶務担当職員と2名のofficerを除き全員が異動し、従来の業務スケジュールに多少の遅れが生じている。また、局の名称が変更されるとともに、タイ王国の輸出の振興・促進については、全て当局が責任を持つこととなり、その意気込みは並々ならぬものがある。

(2) 総合所感

- 展示分野に関しては、既に2回の短期専門家派遣により技術移転は終了し、本センターの展示場も2～3ヶ月先まで使用予定がぎつしりと詰まっている状態である。
- 貿易研修分野では、タイ民間企業向セミナーは、本センターにより順調に開催されており、本センターの経常運営・一般事項の技術移転は、ひとまず終了段階に達したため、今後は、特定の分野に的をしぼり、短期専門家による対応でプロジェクトをまとめ上げるのがより現実的である。
- 規格品質管理分野は、当プロジェクトの主管局（輸出振興局-D E P）ではなく、外国貿易局（DFT）下のOCSからカウンターパートが派遣されているため両局の円滑な協力関係が不可欠であるとともに、日本側協力期間終了後の研修機材の有効利用法について、今後の課題となろう。

Ⅳ 現在までの協力実績の評価

(別添資料 JOINT PRE-EVALUATION REPORT参照)

調査結果を踏まえチームはDEPと協議を行ない、別添のPRE-EVALUATION REPORTに署名・交換を行なった。

1. 主な留意点

(1) スタッフィングについて

- 貿易研修分野での、カウンターパートについて技術移転を円滑に行なうため、貿易実務面の経験者が必要なことを確認した。
- 同じく規格品質管理分野では常時カウンターパートが、プロジェクトに配置されることが効果的である旨、明記した。

(2) 機材について

- 協議に於てタイ側より要請のあった今後供与予定の機材については、既に提出されたA-4フォームに記載のあるものの外、スペアパーツとCONCLUSIONの1.に記載された、バンコック以外での研修に用する機材をANNEX3-2として追加した。
- 機材保守システムの改善を盛り込んだ。
- A. V. 機器L.L. 機器の有効利用を図るよう記載した。

2. 結論

(1) 1.について

プロジェクト活動の大部分についてFinal Stageにあるという認識では双方合致したが、DEPのChare局長よりバンコック以外でのField surveyとtrainingについて“dynamic manner”で実行することを盛り込むよう要請があった。これは、商務省全体の施策として、地域振興を掲げている点と、既に専門家がバンコック効外で研修用の採取を行なっているのを拡大して欲しい点からこの提案がなされたと推測される。しかし詳細が不明なことからhowever以下を当初タイ側案のboth sides share the viewsからThai side has the viewsとし、最後にthe Japanese side took noteを加えるにとどめた。具体的な計画は今後タイ側で今年中に作成しその後日本側で実施可能性について個々に検討することになった。

(2) 2.について

若干の字句の追加が行なわれたが文意に差はなくSelf-relianceに移行しているという認識では一致している。

(3) 3.について

貿易研修分野のgeneral matterの意味についてchare局長より質問がなされたが、

貿易に関する事務手続き、金融等の基礎的な部分であるとの当方の答弁を理解し原案どおりで合意した。

(4) 4.について

特に意見はなく、原案どおりで合意した。

V 協力期間終了時（昭和62年9月）までの協力計画

（別添資料 MINUTES OF THE MEETING参照）

プレ・エバルエーション・レポートでの合意結果を踏まえDEPと以下のとおりミニッツの署名・交換を行った。

1. プレ・エバルエーションレポートの結論を引用した。

2. 現行R/D終了までのT S Iを作成した。

(1) 貿易研修分野の短期専門家派遣に関しては、どの特定分野のどのような専門家が適任かを明らかにするため詳細及び具体的内容を今後タイ側と詰めることとした。

(2) 規格品質管理（工業製品）と商業日本語については if necessary とした上でT S I上に線引した。

Ⅵ 今後の留意点

本プロジェクトを今後円滑に実施するためには、以下の点について留意する必要がある。

1. 貿易研修分野でタイ側より出ている5品目については具体的内容・項目につき聴取の後、専門家派遣可能性を検討する。
2. AV機器に関し何が必要か、専門家の教える項目は何かを特定する。
3. CONCLUSIONの1における“dynamic manner”について具体的なアイデア・計画を聴取し実行可能性を探る。
4. 規格品質管理部門のカウンターパートは他局のOCSから派遣されているためTTCとの協力関係や協力期間終了後の機材の有効利用法について検討する必要がある。

DEP's mission: Supporting your profitable sourcing activities from Thailand

The Department of Export Promotion (DEP) is an agency of the Ministry of Commerce, Royal Thai Government. Simply put, our objectives are to promote the international recognition of Thailand as a profitable sourcing opportunity and to assist foreign buyers in every possible way to swiftly and efficiently conclude profitable business with Thai manufacturers and exporters.

In order to achieve these objectives DEP's professionally-trained staff work closely with both sides of the export equation - Thai manufacturers and exporters and foreign buyers and importers. In addition DEP advises the Royal Thai Government on all matters related to improving the country's export efficiency and monitors and analyses international market trends by country, product and trade opportunity.

This brochure has been designed to help foreign buyers of Thai products access our wide range of services, wherever you are located. The main service areas are described on the following pages. However, there are a number of other DEP activities which directly and indirectly support our front-line, buyer-directed services. These include:

Export Development Committee:

DEP acts as the Secretariat for the powerful Export Development Committee (EDC) which is chaired by the Minister of Commerce. EDC is a policy-level committee established by the Council of Ministers (Cabinet) to direct and coordinate improvements in Thailand's export efficiency. Its members are drawn from both the private and public sectors and represent all major commercial and government agencies involved in exporting from Thailand.

Since its establishment in 1977, the Export Development Committee has been actively involved through its members in improving the international competitiveness of producers and manufacturers of Thai exports, in streamlining export procedures, in promoting new export products and in the creation of new overseas markets.

Since EDC is concerned with all aspects of Thailand's export performance, it welcomes observations and recommendations from foreign buyers with practical experience in importing from Thailand. Such comments should be directed to the Director-General of the Department of Export Promotion who will ensure that they receive the prompt attention of the Committee.

Trade Training Centre:

Although DEP's Trade Training Centre has no direct contact with foreign buyers, its work benefits all importers of Thai products.

Officially opened in 1984, the Trade Training Centre organises programmes for Thai public and private sector agencies and individuals designed to upgrade specific export-related skills. These programmes range from product development, standardisation and quality control to general trading practices, trade financing and international marketing.

In all its activities the Trade Training Centre has as its ultimate objective the enhanced acceptance of Thailand's exporters and their products in world markets thereby creating additional opportunities for foreign buyers and importers.

Trade information services:

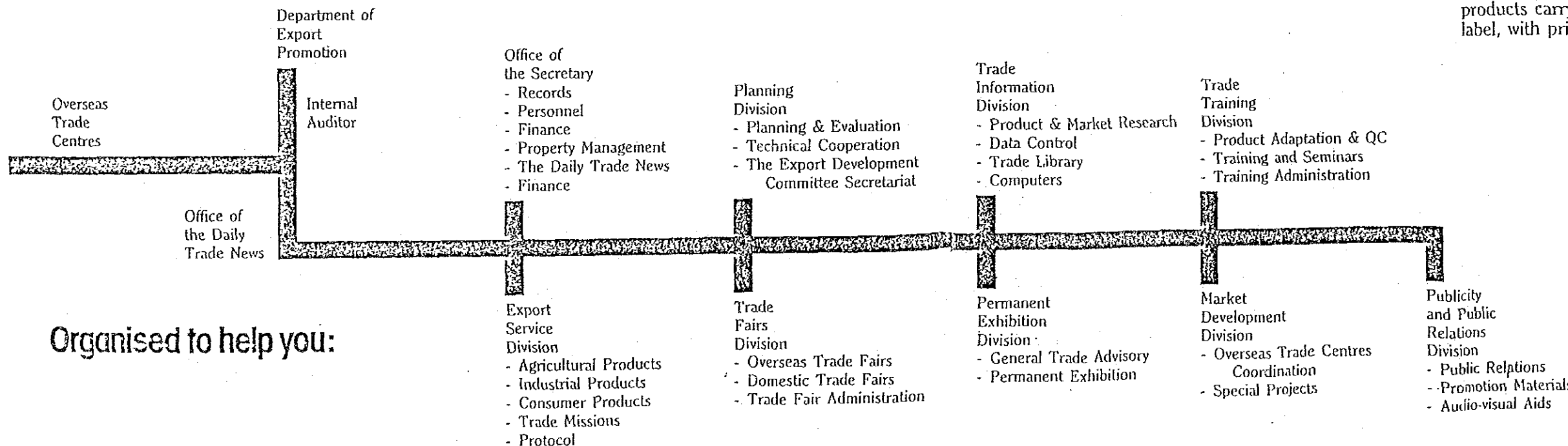
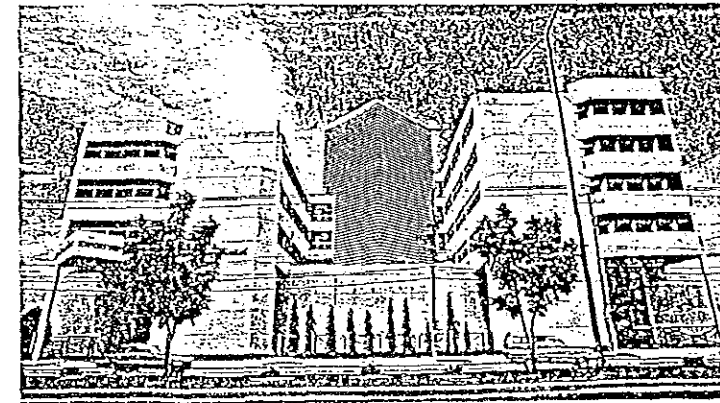
The DEP's Trade Information Division maintains a computerised trade information data-base which foreign buyers can access either through DEP's overseas Thai Trade Centres or at the Department's Headquarters in Bangkok.

The trade information data-base contains current import-export statistics, lists of selected Thai manufacturers and exporters categorised according to product and market interests and other relevant data of use to the foreign buyer interested in sourcing from Thailand. The information is being continuously expanded and up-dated and represents the most accurate repository of Thai export opportunities.

In addition, DEP produces the Thai-language Daily Trade News newspaper in order to keep Thai manufacturers and exporters fully informed of current international product and price trends and various export opportunities.

DEP is at your service:

The Department of Export Promotion hopes that foreign buyers interested in sourcing from Thailand will regard DEP as their most useful first point of contact. Our goal is to facilitate and assist your business dealings with Thai manufacturers and exporters. All our services are free of charge and are designed to encourage you to strengthen your competitive edge by buying products carrying the "Made in Thailand" label, with pride.



JOINT PRE-EVALUATION REPORT

ON THE

TECHNICAL COOPERATION PROJECT FOR THE

THAI TRADE TRAINING CENTER

OCTOBER 1986

BANGKOK, KINGDOM OF THAILAND

MUTUALLY ATTESTED AND SUBMITTED

TO ALL CONCERNED

Bangkok, Kingdom of Thailand

October 27, 1986

飯村 圭三

Keiji Iimura
Leader,
Japanese Consultation Team,
Japan International
Cooperation Agency,
JAPAN

C. Sukitjavanith

Chachaval Sukitjavanith
Deputy Director General
for Director General
Department of Export
Promotion,
Ministry of Commerce,
KINGDOM OF THAILAND

I. INTRODUCTION

1. OBJECTIVE

The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA), headed by Mr. Keiji Iimura visited the Kingdom of Thailand from October 21 to 28, 1986 in order to pre-evaluate the Japan - Thai Technical Cooperation Project on the Trade Training Center which has been carried out so far three (3) years and less than one (1) year left on the basis of the Record of Discussions signed on September 5, 1983 between the Japanese Implementation Survey Team and the authorities concerned of the Government of the Kingdom of Thailand.

The Team discussed and studied with the Thai counterparts concerned and the Japanese experts on a number of aspects regarding the performance of commitments, achievements of TTC's functions, and constraints which hampered past activities.

Through careful studies and discussions, both sides summarized their findings and observations as described in the following chapters.

2. BRIEF BACKGROUND OF THE PROJECT

In 1981, the Government of the Kingdom of Thailand requested the Government of Japan to consider technical cooperation for a project and establish the Trade Training center (TTC).

Upon this request, the Government of Japan through JICA sent several survey teams to Thailand in the aspect of grant aid and technical cooperation.

On the basis of the report and recommendations of the preliminary survey team, the Japanese Implementation Survey Team organized by JICA visited Thailand from August 28 to September 7, 1983 for the purpose of working out the details of the Technical Cooperation Programme for the Project on the Trade Training Center.

The team discussed and studied with its Thai counterparts on a number of points concerning the project for its effective implementation and management.

After careful studies and discussions, both parties agreed to recommend to their respective Governments the implementation of the project as described in the "Record of Discussions" signed on September 5, 1983 between the Director General of Department of Commercial relations (now the name of the department has changed to Department of Export Promotion) and the Leader of the Japanese Implementation Survey Team. This recommendation was accepted in principle by both governments and as a result, the technical cooperation programme was started.

3. SUMMARY OF THE PROJECT

The summaried record of implementation of the technical cooperation programme is listed below :

Chronological Review of the Project

<u>Year</u>	<u>Month</u>	<u>Item</u>
1982	Jan.	Dispatch of the Japanese preliminary survey team
	Feb.	Dispatch of the Japanese basic design study team
	Jun.	Signing of the Exchange of Note
	Sep.	Dispatch of the Japanese preliminary survey team
1983	Aug.	Dispatch of the Japanese implementation survey team
	Sep.	Signing of R/D & TSI
	Dec.	Completion of TTC building

1984 Jan. Dispatch of one long term expert on Coordination and two short term experts on Stand. & Q. Control (Agricultural products)

Apr. Dispatch of three long term experts on Chief advisor, Trade Training (Marketing) and Stand. & Q. Control (Agricultural products)

Dispatch of two short term experts on Stand. & Q. Control (Industrial product)

Acceptance of one trainee in Japan

Jun. Acceptance of one trainee in Japan

Jul. Acceptance of one trainee in Japan

Aug. Dispatch of the Japanese consultation team

Aug. Dispatch of one short term expert on exhibition

Oct. Acceptance of one trainee in Japan

Dispatch of one long term expert on Stand. & Q. control (Agricultural products)

Dec. Dispatch of one long term expert on trade training (Trade Finance)

1985 Jan. Dispatch of one short term expert on Stand. & Q. control (Agricultural products)

Feb. Acceptance of three trainees in Japan

Apr. Dispatch of two short term experts on Stand. & Q. control (Industrial product)

Jun. Dispatch of one short term expert on trade training (Business Communication)

Aug. Dispatch of one short term expert on exhibition

Oct. Acceptance of one trainee in Japan

Nov. Acceptance of two trainees in Japan

Dec. Acceptance of one trainee in Japan

1986 Jan. Dispatch of one short term expert on Stand. & Q. control (Agricultural products)

Apr. Dispatch of one long term expert on Stand. & Q. control (Agricultural products)

Aug. Dispatch of two short term experts on Stand. & Q. control (Industrial product)

II. METHODOLOGY OF PRE-EVALUATION

1. In order to evaluate the past performance and achievement both quantitatively and qualitatively, the following items are adopted as reference :

- (1) The Record of Discussions
- (2) The official request made by the Government of Thailand with respect to expert services, training of counterparts in Japan and provision of equipment by means of A-1, A-2, A-3 and A-4 forms respectively.
- (3) Minutes of Meetings and the Annual Work Plans agreed or accepted in the course of implementation of the Project.

2. For the purpose of pre-evaluation, the Team discussed various aspects of the Project and observed the buildings, machinery, equipment, facilities and utilities made available for the Project.

III. RESULT OF PRE-EVALUATION

1. Building and Facilities

Upon the signing of the Exchange of Note on June 24, 1982, the construction of the Thai Trade Training Center was started under Japan's Grant Aid. The Center was completed and handed over from the Government of Japan to the Government of the Kingdom of Thailand in December, 1983.

2. Staffing

The list of counterpart personnel as of October, 1986 is in ANNEX 1.

(COMMENTS)

- (1) The efforts of TTC officials towards keeping necessary staffs for the Project is appreciated.
- (2) In the field of Trade Training, the assignment of counterpart personnel with qualification of trade business and trade management is necessary for smooth transfer of technology.
- (3) The assignment of the full time counterpart personnel in the field of Stand. & Q. Control is necessary for the attainment of the effective technology transfer.

3. Management and Administration

All administrative and managerial services are being provided by the existing staff of the DEP, Ministry of Commerce.

The Joint Committee which consists of delegates from the DEP, TTC, OCS and DTEC and the Japanese side were held at least once a year for the smooth implementation of the Project.

The organization chart of TTC is as in ANNEX 2.

(COMMENTS)

- (1) Thanks to the effort made by the Thai side, the management and administration of TTC has been carried out without much difficulty.

- (2) The Joint Committee are well organized and these Committee were very useful for the smooth and effective implementation of the project.

4. Equipment

Between September 1983 and September 1986, machinery and equipment worth about CIF ¥ 22 (twenty two) million have been provided by the Japanese Government. (Refer to ANNEX 3-1)

The machinery and equipment so far provided have been installed and put on operation under the guidance of JICA experts and counterpart personnel.

In addition to the equipment shipped as above, some more will be provided before September 1987. The amount of which is estimated to be approximately ¥ 20 (twenty) million. (Refer to ANNEX 3-2)

(COMMENTS)

- (1) The most of machinery and equipments which are needed for the Trade Training Center have been already provided by Grant Aid and Technical Cooperation.
- (2) The maintenance system should be established and improved.
- (3) Though most of the equipments provided by Japan are frequently used. Audio Visual and Language Laboratory equipments should be used more effectively.

5. Japanese Expert

JICA has dispatched seven (7) long term experts and thirteen (13) short term experts. (Refer to ANNEX 4). In addition four (4) JICA teams were also dispatched in connection with the Project. (Refer to ANNEX 5).

(COMMENT)

- (1) All the efforts exerted by the experts in an attempt to achieve the successful technology transfer are appreciated by the Thai staff.

6. Training of Counterpart Personnel in Japan

A Total of eleven (11) counterpart personnel from TTC and

OCS have been sent to Japan for technical training. (Refer to ANNEX 6)

(COMMENT)

- (1) The individual training courses at The International Trade and Industry Inspection Institute, Food Agency, Japan External Trade Organization, Institute for International Studies and Training and some other institutes have been satisfactory with the efficient coordination of JICA and cooperation of said institutes.

7. Work Plan and Accomplishment

Project accomplishment based on the Tentative Schedule of Implementation is shown in ANNEX 7. The targets are indicated by dotted lines and the actual implementation by solid lines.

IV. CONCLUSION

As a result of the joint pre-evaluation work and discussions, both sides reached the following conclusion:-

1. In general, most activities of the Project on the Record of Discussions are coming to the stage of their targets, however Thai side has the views that the operation of Trade Training Center could be operated in more dynamic manner if consideration has been made to expand the operation to include field survey as well as training in other areas outside Bangkok, and the Japanese side took note.
2. The exhibition hall under this project has recently been utilized and the operation of which has been executed on self-reliance bases by the Thai side.
3. In the area of Trade Training, training in general matter is now in the stage of self-reliance and the specific items requested (1.Processed food 2.Garments 3.Furniture, Wood-work products 4.Jewelry 5.Parts of electronic equipments) may be covered according to the possibility of recruiting Japanese experts.
4. The experts in the field of Stand. & Q. Control (Industrial Product) and Business Japanese will be dispatched after the examination of its necessity by both sides.

ANNEX 1

October 1986

Counterparts List of TTC Project

1. Project Coordinator

1. Ms. Duangmal Hoontrakul (QC)
2. Mr. Somdet Susomboon (general)

2. Trade Training
International Finance

1. Ms. Ubolphan Klykoom
2. Ms. Vantanee Kuachati

3. Quality Control & Standardization

A. Agricultural Products

1. Mr. Chinaratana Sawatdipanee
2. Mr. Somsak Tanasupawat
3. Ms. Jintana Nateesatitarn (maize)
4. Ms. Nongnoot Singhaphanahu (- do.-)
5. Ms. Suree Viriyakitpatana (sorghum)
6. Ms. Wanna Kongcharoenchittikul (- do.-)
7. Mr. Suchart Arunakul (tapioca)
8. Mr. Khanittha Virattanapanu (- do.-)
9. Mr. Suvit Rujirayanyong (mung beans)
10. Ms. Patra Kupapithayanan (- do.-)
11. Mr. Bundit Phurkhao (kenaf & jute)
12. Mr. Weerachai Nopsuwanvong (kapok)
13. Mr. Fiyachart Supanagula (fish meal)

B. Industrial Products (Textile)

1. Mr. Amarin Kongpun
2. Mr. Pichet Intarapanich
3. Ms. Porntip Sritalanonda

The Organization of The Trade Training Division

Trade Training Division

Ms. Kanchana Prasong
Director

Products Adaptation & QC Section

- MRS. DUANGMAL HONTRAKUL
Senior Trade Officer
- Mr. SOMDET SUSOMBOON
Trade Officer
- MR. SANGUANSAK PHONPALAIHARN

Training and Seminar Section

- MRS. UBOLPIAN KLYKOOON
Senior Trade Officer
- MS. CHINTANA DAENGPRASERT
Senior Trade Officer
- MS. VANTANEE KUACHIATI
Senior Trade Officer
- MRS. JIRAPAPIAN VORAPONGSE
Public Relations Officer

General Affairs

- MRS. SUPATTRA SWANGCHIANG
General Affairs Officer
- MS. ROJANA BOONMA
General Affairs Officer
- MS. PACHAREE NARKSAWAT
General Affairs Officer
- MS. PORNTIP KRONGSAKSREE
General Affairs Officer
- MRS. SOMMAI KAEWBANTRUD
Custodian

Training Administration Section

- MR. NIYOM NIPATSANT
Senior Trade Officer
- MS. AMORNAT TARNREVADEE
Trade Officer
- MR. RUANGSAK THONKLAHAN
General Affairs Officer

LIST OF EQUIPMENT

1. Provided Equipment

Fiscal Year	Equipment	Price (million yen)
1984	Complete Digestion System Nitrogen Protein Analyzer Advanced Personal Computer	6. ²
1985	Audio Visual Equipments Camera Lenses Transparency maker Lettering System etc. Germinator	2. ²

2. Accompanied Equipment

Fiscal Year	Equipment	Price (million yen)
1984	Technical Books Samples Crusher Neocool Circulator Chemicals for Inspection KETT Grain Moisture Meter etc.	5. ³
1985	Technical Books Word Processor Corn Grain Separator Test tubes Chack with Rubber Sheet	4. ⁷
1986	Oven Laboratory Wares with Transformer Riffle Samplers Cross Beater Mill Grain Pelisher etc.	3. ⁷

List of Equipment Requested

1. Audio-Visual Equipment
 - * Video Tape Equipment
 - Video Tape Editing Equipment
 - Video Tape Duplicating Equipment
 - Video Projection Equipment (Auditorium Use)
 - * Audio Cassette Tape Recorder (Portable Type)
To record interview etc. for AV material production
 - * Other Equipment necessary for AV Training Material Development
2. Standardization & QC Related Equipment
 - * Fish Meal Inspection Equipment
To inspect foreign material and other matters
3. Training & Reference Materials
 - * Video Tapes
 - * Reference Books
 - * Film
4. Others
 - * Printed Paper Sorter
Equipment to sort printed paper in sets
 - * Preset/Repeat Counter of the Printer
Option to the offset printer (RYOBI 2800/CD provided by the Grant Aid Program) to automatically stop printing when the set number of sheets have been printed
 - * Spare parts for the equipment
5. Equipment necessary for the Stand. and Q. Control programme which is mentioned in item 1 of Conclusion and will be submitted by December, 1986

Dispatch of Experts

Long Term Experts

CALENDAR YEAR	1984	1985	1986	1987
Chief Advisor	① ←-----△-----→			
Coordination	② ←-----△-----→			
Trade Training (Marketing)	③ ←-----→			
Trade Training (Trade Finance)		④ ←-----→		
Stand&Q.Control (Agricultural Products)	⑤ ←-----→			
-do-	⑥ ←-----△-----→			
-do-			⑦ ←-----→	

Short Term Experts

Trade Training (Business Communications)		⑧ ←-----→		
Stand&Q.Control (Industrial Products)	⑨⑩ ←-----→	⑪⑫ ←-----→	⑩⑪ ←-----→	
Stand&Q.Control (Agricultural Products)	⑤⑥ ←-----→	⑬ ←-----→	⑬ ←-----→	
Exhibition	⑭ ←-----→	⑮ ←-----→		

①	Kiyoshi AONUMA	Chief Advisor	Apr.27,1984 ~ Sep. 5,1987
②	Masaharu OTAKE	Coordination	Jan.25,1984 ~ Sep. 5,1987
③	Masao KOIZUMI	Trade Training (Marketing)	Apr.27,1984 ~ Apr.26,1986
④	Katsumi YOGUCHI	Trade Training (Trade Finance)	Dec.15,1984 ~ Dec.14,1986
⑤	Kazuyuki ISHII	Stand & Q.Control (Agricultural products)	Jan.25,1984 ~ Feb. 8,1984 Apr.27,1984 ~ Apr.26,1986
⑥	Seiji KAGA	-do-	Jan.25,1984 ~ Feb. 8,1984 Oct.22,1984 ~ Sep. 5,1987
⑦	Yoshitsugu UMENO	-do-	Apr.14,1986 ~ Sep. 5,1987
⑧	Kiyoshi NAKASHIMA	Trade Training (Business Communication)	Jun.18,1985 ~ Jan.16,1986
⑨	Kazumi SAGISAKA	Stand & Q.Control (Industrial products)	Apr.27,1984 ~ Jul.26,1984
⑩	Tsunehide MIKI	-do-	Apr.27,1984 ~ Jul.26,1984 Aug. 1,1986 ~ Nov.15,1986
⑪	Ikuo TSUKAGOSHI	-do-	Apr.21,1985 ~ Jul.19,1985 Aug. 1,1986 ~ Nov.15,1986
⑫	Minoru KATO	-do-	Apr.21,1985 ~ Jul.19,1985
⑬	Isao MATSUBARA	Stand & Q.Control (Agricultural products)	Jan. 5,1985 ~ Mar.16,1985 Jan.31,1986 ~ Apr.10,1986
⑭	Hiroaki AZUMA	Exhibition	Aug.18,1984 ~ Nov.16,1984
⑮	Iwao KOYAMA	-do-	Aug.12,1985 ~ Nov. 9,1985

JAPANESE SURVEY TEAM DISPATCHED BY JICA

CALENDAR YEAR	1982	1983	1984	1985
1.1st Preliminary Survey Team Keiichi TACHIBANA Seiji MORIMOTO Kazumi FUJITA Kazuyoshi SETO Kiyoshi AONUMA Naoki KAI Osamu MATSUMURA	←→ 1/6 1/14 ←→ 9/20 10/3	←→ 8/23 9/7	←→ 8/19 8/25	
2.2nd Preliminary Survey Team Kiyoshi AONUMA Kazumi FUJITA Naokiyo NISHIYAMA Sadayoshi ANAI Aiji SUZUKI Ikuro TSUKAGOSHI Kouji SATO				
3.Implementation Survey Team Toshikazu MIURA Kiyoshi AONUMA Kazumi FUJITA Kenji IZUMIDA Kiyoshi TAKAHASHI Takashi SANO				
4.Consultation Survey Team Shigemitsu SUZUKI Norio OKESHA Hiroshi NOJIMA Iwao MORIZONO Toshio SHOMURA Yoshitsugu UMENO Takashi SANO				

Thai Counterpart Participants for the JICA's Training

ITEM	CALENDAR YEAR		
	1 9 8 4	1 9 8 5	1 9 8 6
Trade Training	① ←→	⑤ ←→ ⑥ ←→ ⑦ ←→	
Stand & Q.Control(Industrial Products)	② ←→	⑩ ←→	
Stand & Q.Control(Agricultural Products)	④ ←→	⑪ ←→	
Exhibition	③ ←→	⑨ ←→	
Business Japanese		⑧ ←→	

	Name	From	to	Duration	Field
①	Mr.Phatai Sooksommai	84/ 4/ 1	84/ 5/31	2 months	Trade training
②	Ms.Suwimol Tikinanond	84/ 6/14	84/ 8/21	2.5 months	Stand.& QC,Textile
③	Mr.Sawek Sakdarak	84/ 7/26	84/ 9/ 5	1.5 months	Exhibition
④	Mr.Trairat Hongsuwong	84/10/ 8	84/12/14	2.5 months	Stand.& QC,Agricultural products
⑤	Mr.Chavalit Rojjanaprapayon	85/ 2/14	85/ 5/13	3 months	Trade training
⑥	Mr.Surasakdi Sukhopala	85/ 2/14	85/ 5/13	3 months	Trade training
⑦	Mr.Vorapote Wongprasertphol	85/ 2/14	85/ 5/13	3 months	Trade training
⑧	Ms.Amornrat Tarnrevadee	85/10/24	86/ 4/29	6 months	Trade training,Business Japanese
⑨	Ms.Vantanee Kuachati	85/11/12	85/12/17	1 months	Exhibition
⑩	Mr.Pichet Intarapanich	85/11/12	85/12/17	1 months	Stand.& QC,Textile
⑪	Mr.Chinaratana Sawatipanee	85/12/ 4	86/ 2/14	2.5 months	Stand.& QC,Agricultural products

Project Accomplishment

P H A S E (STAGE)	PREPARATION		IMPLEMENTATION			SELF-RELIANCE
	1983	1984	1985	1986	1987	1987
CALENDAR YEAR	1983	1984	1985	1986	1987	1987
JAPANESE FISCAL YEAR	1983	1984	1985	1986	1987	1987
ITEMS						
1. Dispatch of Japanese experts						
1) Long-Term Experts						
(1) Team Leader						
(2) Coordinator						
(3) Trade Training						
(4) Standardization and Quality Control						
2) Short-Term Experts						
(1) Trade Training						
(2) Standardization and Quality Control						
i. Industrial Products						
ii. Agricultural Products						
(3) Exhibition						
2. Training of Thai Counterpart Personnel in Japan						
1) Trade Training						
2) Standardization and Quality Control						
(1) Industrial Products						
(2) Agricultural Products						
3) Exhibition						
3. Provision of Equipment and Machinery						

THE MINUTES OF THE MEETING BETWEEN THE JAPANESE
CONSULTATION TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED
OF THE GOVERNMENT OF THE KINGDOM OF THAILAND ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION PROJECT FOR
THE THAI TRADE TRAINING CENTER

The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "The Team"), organized by the Japanese International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") headed by Mr. Keiji Iimura visited the Kingdom of Thailand from October 21 to October 28, 1986, exchanged views and had a series of discussion with the Thai authorities concerned for the purpose of modifying the Tentative Schedule of Implementation to the end of the Project for the Trade Training Center (hereinafter referred to as "the Project").

As a result of the joint pre-evaluation work and discussions, both sides reached the following conclusion:-

1. In general, most activities of the Project on the Record of Discussions are coming to the stage of their targets, however Thai side has the views that the operation of Trade Training Center could be operated in more dynamic manner if consideration has been made to expand the operation to include field survey as well as training in other area outside Bangkok, and the Japanese side took note.
2. The exhibition hall under this project has recently been utilized and the operation of which has been executed on self-reliance bases by the Thai side.
3. In the area of Trade Training, training in general matter is now in the stage of self-reliance and the specific items

requested (1.Processed food 2.Garments 3.Furniture, Wood-work products 4.Jewelry 5.Parts of electronic equipments) may be covered according to the possibility of recruiting Japanese experts.

4. The experts in the field of Stand. & Q.Control (Industrial Product) and Business Japanese will be dispatched after the examination of its necessity by both sides.

In view of the above, both sides agreed to recommend to their respective Government that the technical cooperation to the end of the Project be carried out in accordance with the ANNEX 1 in order to fulfil the objectives which were planned in the said Record of Discussions.

Bangkok, October 27, 1986

伊村 圭司

Keiji Iimura
Leader,
Japanese Consultation Team,
Japan International
Cooperation Agency,
JAPAN

Chachaval Sukitjavanith

Chachaval Sukitjavanith
Deputy Director General
for Director General
Department of Export
Promotion,
Ministry of Commerce,
KINGDOM OF THAILAND

1. The Tentative Schedule of Implementation and the Technical Cooperation Programme of the Project to the end of the cooperation period are shown in ANNEX A and B.

2. In formulating the above-mentioned schedule, it was mutually understood that both sides should exert their utmost effort so as to attain the target stated in the above mentioned schedule within the cooperation period.

	1986						1987											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
I. Dispatch of Japanese Experts 1 Long-Term 1) Leader 2) Coordinator 3) Trade Training (Marketing) 4) Trade Training (Trade Finance) 5) Stand & Q.Control (Agricultural Products) 6) Stand & Q.Control (Agricultural Products)																		
2 Short-Term 1) Stand & Q.Control (Industrial Products) 2) Stand & Q.Control (Industrial Products) 3) Stand & Q.Control (Agricultural Products) 4) Trade Training 5) Business Japanese																		
II. Training of Thai Counterpart Personnel in Japan 1) Trade Training 2) Stand & Q.Control (Industrial Products) 3) Stand & Q.Control (Agricultural Products) 4) Maintenance of Equipments																		
III. Provision of Equipment and Machinery																		

Technical Cooperation Plan

ANNEX B

IV. Activity	Calendar Year	1986		1987	
		4	12	1	9
1. Trade Training		* Development of Practical Knowledge and Techniques concerning international trade			
		* Acquisition of Knowhow of how to hold Seminars			
2. Stand & Q. Control (Agricultural Products)		* Inspection on agricultural items listed in R/D			
		* Inspection on fishmeal			
3. Stand & Q. Control (Industrial Products)		* Inspection on textile			
4. Exhibition			Self-reliance		

Ⅶ 貿易研修

本分野ではマーケティング及び国際金融分野について長期専門家派遣を行ない技術移転を図った。しかしながら、わが方の再三の要請にもかかわらず配置されたカウンターパートは、貿易に携わった経験も浅いことから、プロジェクト協力期間終了後についても勧案し、当初目標の専門分野の技術移転と平行してセミナー開催方法の移転も進めてきた。

セミナーの開催方法については、別添のとおり、かなりの頻度で催されていることから技術移転の成果と見てよいだろう。又、専門分野は、基礎的、一般的な know-how の移転は完了したとの認識に基づき、タイ側から、特定の商品グループに対するより要請が出された。しかし、具体的にどのような専門家が適当なのか詳細については、なお不明なため、昭和63年1月に予定されているリーダー会議までに詰めることとした。

又、商業日本語は、短期専門家により初級の研修が行なわれたが、「イ」国側の都合によりカウンター・パートが配置されなかったためなどより、研修科目から当面見送った経緯がある。しかし、研修実施過程において非常に盛況であった点及び受講者の質も高かった点などから「タ」側・日本側両方で協議の上、今後派遣について検討することになった。

VIII 展 示

展示研修については、過去2回の短期専門家派遣により技術移転は終了。その後、タイ側の展示場使用状況からも（全てが貿易振興という観点から使用されているとは限らないが）この分野に関しては既にセルフ・リライアンスが確立されているという認識で日・タイとも一致している。

Ⅸ 規格品質管理（工業産品（繊維））

1. 本分野の技術協力の経緯

タイ国の主な輸出繊維製品は、合成繊維糸、合成繊維織物、綿織物及び縫製品である。この他に輸出量が少ないものの、国際的に知名度の高いタイシルク製品があり、タイ国ではこのタイシルク製品の輸出拡大に力を入れている。このため、タイ国では絹織物の輸出規格及び検査基準を制定し、輸出検査を実施している。

しかし、タイ国では繊維製品の試験・検査技術が未熟であるため、検査基準に規定されている品質項目のうち、ほとんどの項目については実際には検査を行っていない、単に織物の幅のみを確認している現状であった。

そこで、本技術協力の対象機関であって、タイ国の輸出産品の品質向上を事業目的の一つとしているTTCに対し、我が国の繊維製品の試験・検査技術を移転することによって、タイ国の絹織物の検査技術の向上を図ろうとすることになったものである。具体的には、年1回、3ヶ月間の短期専門家の派遣及び年1回のタイ国側カウンターパートの日本における研修をそれぞれ3ヶ年間実施することで本分野の技術協力を進めることとなった。現在までの専門家派遣及び研修員受入れ状況は次のとおりである。

○専門家派遣状況

派遣時期	専門家名	所属
1984年4月27日～7月26日	三木常秀	通商産業検査所
	鷺坂和美	"
1985年4月21日～7月19日	加藤稔	"
	塚越郁生	"
1986年8月1日～(11月15日)*	三木常秀	"
	塚越郁生	"

○研修員受入れ状況

受け入れ時期	研修員名
1984年6月14日～8月21日	Ms. Suwimol Tikinanond
1985年11月12日～12月17日	Mr. Pichet Intarapanich
(1987年1月～3月)*	(Mr. Amarin Kongpun)*

* () は予定

2. 技術協力の進捗状況

(1) 資料・教材等の作成状況

本分野では、織物の検査手順を示したスライド、繊維の基礎知識を内容とした教本、試験技術を修得するための日本工業規格、更にこれらの教材を補完するために専門家が作成した教本等を用いて技術移転を進めている。これらの資料・教材を次表に示す。

Textbook etc. used for Training

(INDUSTRIAL PRODUCTS : TEXTILE)

Textbook etc.		Training Step					
		Step I		Step II		Step III	
		G.I.	T.	G.I.	T.	G.I.	T.
Quality Inspection of Silk - color slide -	prepared by MITI	○					
Test of Textile - color slide -	prepared by MITI		○				
Instruction manual of various equipments		○	○	○	○		○
Thai Export Standard for Silk Fabrics and Silk Products	Thai Standard	○	○	○	○	○	
The Criteria and Procedures of Arrangement for Inspection and Standards Inspection for Silk Fabrics and Silk Products	Thai Standard	○	○		○	○	
Fibers	prepared by JICA	○	○	○	○		
Fundamental Knowledge on Fibers	prepared by JICA	○	○	○	○		
General Principles of Testing Methods for Color Fastness	JIS L 0801		○		○		
Standard Adjacent Fabrics for Staining of Color Fastness Test	JIS L 0803		○		○		
Testing Method for Color Fastness to Sunlight and Daylight	JIS L 0841				○		
Testing Method for Color Fastness to Carbon Arc Lamp Light	JIS L 0842				○		
Testing Method for Color Fastness to Washing	JIS L 0844				○		
Testing Method for Color Fastness to Perspiration	JIS L 0846				○		
Testing Method for Color Fastness to Rubbing	JIS L 0849				○		
Testing Method for Color Fastness to Dry Cleaning	JIS L 0860				○		
Testing Method for Quantitative Analysis of Fiber Mixtures	JIS L 1030		○		○		○
Testing Method for Shrinkage Percentage on Woven Fabrics	JIS L 1042				○		
Testing Method for Fabrics	JIS L 1096		○		○		○
Weaving Defects (Classification)	prepared by Japanese Expert	○		○			
Definitions of Weaving Defects	prepared by Japanese Expert			○			
Japanese Quality Standard For Export Inspection (Silk fabric, Silk products)	prepared by Japanese Expert	○		○		○	
Checking point of Garments	prepared by Japanese Expert					○	
Identification of Textile Fibers	prepared by Japanese Expert		○		○		
Textile Binary Mixture Quantitative Chemical Analysis	prepared by Japanese Expert		○		○		
Color Fastness Test	prepared by Japanese Expert		○		○		
Procedure of Some Major Color Fastness Tests for Fabrics	prepared by Japanese Expert				○		○
Tensile Strength Test for Ordinary Woven Fabrics	prepared by Japanese Expert				○		
Testing Method of Slippage Resistance for Woven Fabrics	prepared by Japanese Expert						○
Testing Method for Seam Strength of Clothes	prepared by Japanese Expert						○

Note : G.I. = General Inspection

T. = Testing

これら以外に、研修期間中にカウンターパート自らが作成した、繊維鑑別の際に用いる顕微鏡用標準サンプル、染色堅ろう度の判定に用いる標準サンプル等がある。

〔その他、必要な資料・教材について〕

織物又は縫製品の外観検査においては、その合否を正しく判定するためには、まず、検査の標準動作を正しくマスターしなければならない。更に、検査技術を維持し、かつ、向上させるためには、繰返しの訓練が必要である。しかし、本分野のカウンターパートは検査技術の移転を受けてから、まだ日が浅いため、十分な繰返し練習がなされていないのが現状である。このため、当該カウンターパートが、本技術協力の終了後、TTCが行う研修事業の講師となるにはまだ、多少の不安が残る状態である。したがって、我が国において、織物及び縫製品の検査の標準動作を映像で現わしたビデオデスクを作成し、これを教材としてTTCに供用して、本技術協力が終了した後も、カウンターパート自らが技術の向上に努められるよう、配慮する必要がある。

(2) コース運営の現状

本分野の研修では、技術の移転を3段階に分け、第一段階では、

- ① 我が国の輸出検査の制度、手法、設備等を紹介し、検査の必要性と繊維製品として管理すべき品質項目を理解させる。
- ② 試験・検査技術の修得に必要な、繊維製品に関する基礎知識を修得させる。
- ③ 絹織物の試験・検査のための基本的な技術の移転

第二段階では

タイ国の絹織物検査基準に規定されている品質項目の試験・検査技術の移転

第三段階では

- ① 絹織物の試験・検査技術のうち、第二段階以外の項目の技術の移転
- ② 縫製品の試験・検査技術の移転

を進めてきた。これを年次別にまとめると、

第一年次（1984年） …… 第一段階の研修

第二年次（1985年） …… 第一段階の復習と第二段階の研修

第三年次（1986年） …… 第一段階、第二段階の復習と第三段階の研修

となる。

なお、第一年次と第三年次には、タイシルクの輸出検査を行っている商品規格事務所（Office of Commodity Standards : OCS）の職員を対象に、カウンターパートが講師となって、当該カウンターパートの技術修得度の確認と、将来、当該カウンターパートがTTCの研修事業の講師となるための訓練を目的としたワークショップを開催している。開催日数及び受講者数は次表のとおりである。

時 期	開催日数	受講者数
第一年次（1984年）	2日間	11名
第三年次（1986年）	4日間	9名

〔TTCの研修年間カリキュラムについて〕

先にも述べたように、本技術協力が終了した後は、TTCが自ら研修会を開催することになるが、TTCがこの研修事業を支障なく、かつ、継続的に行えるよう、専門家が、当該研修の年間カリキュラム(案)を作成し、タイ側に提出することとした。

(3) 機材の活用状況及び管理状況

本分野のカウンターパートはOCSに所属する職員であって日本人専門家の派遣期間中のみ、TTCに出向し、研修を受けている。このため、機材はこの研修期間に集中して活用されている。ただ、一部の機材(タイ国の絹織物検査基準に規定されている品質項目を試験・検査するために必要な機材であって、OCSに設置されていないもの)については、専門家の派遣期間中以外であっても、時折、当該カウンターパートがTTCに出張して使用しているとのことである。

機材の管理状況については、一部のものを除いて常に使用可能な最良の状態であることが確認された。「洗たく堅ろう度試験機」については、今回の調査では使用上、特段の問題はなく、管理状態も良好であったが、本機は運転に際し水を使用するため、長期間運転を行わないと、軸受け部分等にさびを生ずる恐れがあるとのことであり、TTCに運転休止中の管理に注意するよう、指導する必要がある。

各機材の調査結果を別紙6-1から6-7に示す。

〔機材の有効活用について〕

本分野の機材を今後とも有効に活用していくための方策をタイ国側に提案するため、専門家と協議を行った。その内容は次のとおりである。

○生機検反機について

本機は織物の外観上の欠点を検査するとき用いるものであるが、外観上の検査はいわゆる官能検査であるため、カウンターパートのその能力を維持向上させるためには、継続的に本機による検査業務に従事させ、常に目を養っておかなければならない。しかし、本機はTTCに設置されているため、日常の検査業務をOCSで行っている当該カウンターパートは、本機を活用して常に検査の目を養うことが不可能な現状である。

更に、今後、TTCが絹織物検査の研修会を開催しようとする場合には、研修用サ

サンプルとして種々の欠点見本（織物）を準備しておかなければならないが、TTCが高価な絹織物を数多く、常に確保しておくことは、現実的に困難であろう。

これらの問題の対応策としては、本機の設置場所をTTCからOCSに移し、本機を日常の検査業務に活用するとともに、TTCが開催する研修の検査の実習を、輸出検査現場であるOCSにおいて実施することが有効であろう。ただし、OCSにおいて、本機の機能を十分に発揮させるためには、検査終了後の絹織物を巻き取る装置を本機に装備する必要がある。

○その他の機材について

機材の有効活用のためには、TTCの研修事業の推進が必要であることはもちろんであるが、これに併せて、TTC以外の機関が主催する研修に、設備を開放することも一策であろう。

なお、民間企業からの試験依頼に、TTCが応じる方法も考えられるが、これは、工業省工業振興局の繊維工業部（Textile Industry Division: TID）が無料ですでに実施しており、競合する恐れがある。

(4) 技術移転の達成度

本分野の技術移転内容を大別すると「①タイ国の絹織物検査基準を運用するのに必要な技術」

「②タイシルクの品質を管理するために必要な試験・検査技術で、現行検査基準にないもの」となる。このうち①については、カウンターパートは、修得した技術をすでに自らの日常業務で活かしており、また、②についても、ワークショップにおいて受講者に対し、正しく技術を伝えているとのことであり、これらの事から判断すると技術移転は当初予定どおり進んでいると思われる。ただし、外観検査と染色堅ろう度試験については、これらは官能による判定を必要とするため、今後とも、継続的な訓練を行うことによって、技術力の向上に努める必要がある。

カウンターパートごとの技術移転達成度を次表に示す。

技術移転項目 カウンターパート名	検 査			試 験	
	外 観	混用率	目付・ 密 度	染色堅 ろう度	物理試験
Mr. Amarin Kongpun	B	B	A	B	A
Mr. Pichet Intarapanich	B	A	A	B	A
Mrs. Porntip Sritalanont	—	A	A	B	A

A：インストラクターとして十分な技術を修得している。

B：技術移転は完了しているが、更に、自らの繰返し練習が必要。

C：技術的に未熟な点があり、更に、日本人専門家による研修が必要。

(5) カウンターパートの配置と人数

本分野のカウンターパートはOCSに所属する職員で、日常はOCSにおいて絹織物の外観検査、又は混用率検査に携わっているが、日本人専門家の派遣期間中はTTCに出向し、カウンターパートとして試験・検査技術を学んでいるものである。カウンターパートの年次ごとの配置等は次表のとおりである。

カウンターパート名	年 令	年 次 別 配 置			そ の 他
		第一年次 (3名)	第二年次 (2名)	第三年次 (3名)	
Mr. Amarin Kongpun	40	○	○	○	漁業専攻 日本での研修予定 (1987)
Mr. Pichet Intaparanich	28	○	○	○	繊維専攻 日本での研修済 (1985)
Mrs. Porntip Sritalanont	32	○		○	化学専攻

X 規格品質管理（農産品）

1. 対象品目に対するの検査研修の実施状況

(1) 研修品目

タイ王国における主要輸出農産品の品質管理を向上させるため、外国貿易局商品規格事務所（OCS）の担当職員を対象に、品質管理のための中核である検査技術、知識及び手法についての技術等の向上のために①メイズ、②ソルガム、③タピオカ、④マングビーン、⑤フィッシュミール、⑥ケナフ・ジュート、⑦カボック、⑧アフラトキシンの8品目の研修を行っている。

(2) 研修状況

品目別の研修内容については、COURSE CONTENTS OF SKILL DEVELOPMENT TRAINING（別紙1-1、1-2、1-3）のとおりであり、アフラトキシンを除く7品目は研修のためテキスト（別添）を作成し、受講生に配布している。

研修方法については、OCSから派遣された各品目毎1～2名の研修生とカウンターパートに対しステップⅠ～Ⅱと段階的に研修を行った結果、研修生等は検査技術、知識及び検査方法を十分習熟したと認められるので、その習得した検査技術等をもってOCSの検査官に対する講習会が行われている。

このことから、検査技術等とその手法を研修生等自ら講師となり指導出来たことは、初期の目的が達成できたものとみられる。

(3) 今後の研修方法

今後の研修の重点としては、研修生等に対しては検査に関する一般的な技術移転は行われたものの、検査精度の維持向上と検査技術程度の統一を更に図る必要があるので、ステップⅢの研修を行うと共に、これまでの研修課程で生じている問題点を解決すべく「研修課程における問題点とその対応策等」（別紙2）によりタイ王国側と十分話し合いをもった上で、今後の研修をとり進めることが出来れば、検査全般にわたる技術移転はスムーズに行われるとみられる。

また、農産物の検査は、農産物が流通するに当たって、一定の品位に仕分け（検査）を行うことにより、商品性を付与されるという重要な位置づけにあるので、研修生等に対して検査精度の維持向上と検査技術程度の統一を図るためには、事務の研修カリキュラム等を作成することを含め、それらのカリキュラム等に従って、反復練習が行われないと、正しい検査の格付けは出来ない旨の認識を植え付ける必要がある。

(4) 予定されるステップⅢの研修項目

ア 各品目の試料により、選別分析、測定試験、発芽試験及びとう精試験等を実施し、デ

ーターの集積を行う。

イ アのデーターを基礎に被害粒等の限界基準品の作成方法について技術指導を行う。

ウ 検査器材の点検整備を行うと共に、器材の保守管理者に対し器材の整備等の技術指導を行う。

エ スライド及び教材用資料の整備を行う。

2. コース開催頻度

'84年7月9日～'86年10月9日迄の間に8品目延べ1,212時間の研修を行っている。

品目別に見れば①メイズ：194.5時間、②ソルガム：175時間、③タピオカ：113.5時間、④マングビーン：239時間、⑤フィッシュミール：32.5時間、⑥ケナフ・ジュート：54.5時間、⑦カボック：36時間、⑧アフラトキシン：383.5時間であり、メイズ、ソルガム、マングビーン、アフラトキシンの4品目でこれまでの全研修時間の約80%(975.5時間)を当てている。(別紙3-1, 3-2, 3-3参照)

また、この間にメイズ、マングビーン等の輸出検査場所の実態調査を19回(29カ所)行っている。(別紙4参照)

3. 技術移転の達成状況

Standardization & QC (Agricultural Products)

カウンターパート及び研修生の研修状況 規格品質管理(農産品)

カウンターパート 及び研修生氏名	項目 担当品目	検 査			測 定 試 験		ウークショップ	
		測定試料 作成	測定器 具操作	試料の 選別分析	試験分析	測定器具 操 作	運営	技 術
Mr. Samrerng Lengpaibool	全品目	—	—	—	—	—	—	—
Mr. Chinaratana Sawatdipanee	"	A	B	B	B	B	A	B
Mr. Somsak Tanasupawat	"	A	B	B	B	B	A	B
Ms. Jintana Nateesatitarn	メイズ	A	A	A	A	A	A	A
Ms. NONGNOOT Singhaphandhu	"	A	A	A	A	A	A	A
Ms. Suree Viriyakitpatana	ソルガム	A	A	A	A	A	A	A
Ms. Wanna Kongcharoenchittikul	"	A	A	A	A	A	A	A
Mr. Suchart Arunakul	タピオカ	A	A	—	A	A	—	—
Ms. Khanittha Virattanapanu	"	A	A	—	A	A	—	—
Mr. Suvit Rujirayanyong	マングビーン	A	A	A	A	A	A	A
Ms. Patra Kupapithayanan	"	A	A	A	A	A	A	A
Mr. Bundit Phurkhao	ケナフ&ジュート	A	A	A	A	A	B	A
Mr. Weerachai Nopsuwanvong	カボック	A	A	A	A	A	B	A
Mr. Piyachart Supanagula	フィッシュミール	A	—	—	B	B	—	—

A: インストラクターに十分な技術をマスターしている。

B: 技術移転は完了しているが更に自らの繰返し練習が必要

C: 技術的に未熟な点があり更に日本人専門家による研修が必要

注) アフラキシンは除く

4. カウンターパートの配置及び人員

(1) カウンターパート(コーディネイト) …… 全品目

2名(配置換えにより延べでは4名となる。)

(2) 研修生(テクニカルカウンターパート)

ア. メイズ …… 2名(女性)

イ. ソルガム …… 2名(女性)

ウ. タピオカ …… 2名(女性1, 男性1)

エ. マングビーン …… 2名(女性1, 男性1)

オ. ケナフ・ジュート …… 1名(男性)

カ. カボック …… 1名(男性)

キ. フイツシュミール …… 1名(男性)

計 11名

なお、カウンターパート等の品目、コース別の受講時間は「研修生の品目別受講時間」(別紙5-1, 5-2)のとおりである。

5. 機材メンテナンス要員の有無

(1) メンテナンス要員

商務省の予算上では、メンテナンス要員を確保しているようであるが、現状では配置していない。

したがって、今後速やかにメンテナンス要員を配置するよう要請し、メンテナンスの専門家を育成すべきである。

(2) 機材の整備経費

器具、機材の中には、精密測定機械も含まれているので、これらの機械がタイ王国の特に高温、多湿の環境下で長期間に渡り、初期の性能を維持しているかどうかチェックさせ、長期間の使用に耐えうるように整備をするための経費を確保させる必要がある。

6. 機材の活用及び維持管理状況

「主要供与機材及び利用状況調査」(別紙6-1～6-7)のとおりである。

COURSE CONTENTS OF SKILL DEVELOPMENT TRAINING

別紙 1 - 1

Item	Course	Maize						Sorghum									
		Step I Course		Step II Course		Workshop		Step I Course		Step II Course		Workshop					
		July Course 9-31 '84	July 6.5 X 10 = 65	Oct. 15-19 '84	June 17-27 '85	Sep. 25-27 '85	June 24-27 '86	Aug. 13-31 '84	Nov. 19-23 '84	Sep. 16-24 '85	Sep. 25-27 '85	July 15-18 '86	Aug. 6-5 X 9 = 58.5	6.5 X 5 = 32.5	6.5 X 7 = 45.5	5.5 X 3 = 16.5	5.5 X 4 = 22
Training period																	
Training hours																	
Regular attendants		3	3	4	4	10	9	3	3	3	10	9					
Sample used		5	3	5	5	2	5	5	3	4	2	5					
Training skills																	
1. Basic measurement	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
2. Division	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
3. Discrimination	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
4. Sampling	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
5. Solutioning																	
6. Moisture content analysis	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
7. Set up marginal standard			X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
8. Protein content analysis				X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
9. Germination power test																	
10. Starch content analysis																	
11. Fiber content analysis																	
12. Sand content analysis																	
13. Ash content analysis																	
14. Size test																	
15. Test weight			X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
16. Hardness test																	
17. Whiteness test																	

COURSE CONTENTS OF SKILL DEVELOPMENT TRAINING

別紙 1 - 2

Item	Course	Tapioca			Mung-Bean				Fish Meal	
		Step I Course	Step II Course		Step I Course	Step II Course		Workshop		
			Session 1	Session 2		Session 1	Session 2	Session 1		Session 2
Training period	Sep. 25 ~ Oct. 5 '84	Mar. 25-29 '84	Nov. 25-28 '85	Apr. 15-16 '85	May 13-24 '85	July 8-19 '85	July 22-25 '85	Nov. 16-19 '86	March 10-14 '86	
Training hours	6.5 X 8.5 = 55	6.5 X 5 = 32.5	6.5 X 4 = 26	6.5 X 10 = 65	6.5 X 10 = 65	6.5 X 10 = 65	5.5 X 4 = 22	5.5 X 4 = 22	6.5 X 5 = 32.5	
Regular attendants	3	2	2	3	3	3	13	8	2	
Sample used	2	4	4	5	4	5	3	3	10	
Training skills 1. Basic measurement	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
2. Division				X	X	X	X	X	X	
3. Discrimination				X	X	X	X	X	X	
4. Sampling				X	X	X	X	X	X	
5. Solutioning	X	X	X						X	
6. Moisture content analysis	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
7. Set up marginal standard				X	X	X				
8. Protein content analysis			X						X	
9. Germination power test			X	X		X	X			
10. Starch content analysis	X	X								
11. Fiber content analysis	X	X	X							
12. Sand content analysis	X	X								
13. Ash content analysis									X	
14. Size test				X	X	X	X	X		
15. Test weight				X	X	X	X	X		
16. Hardness test	X	X								
17. Whiteness test	X	X								

COURSE CONTENTS OF SKILL DEVELOPMENT TRAINING

別紙 I - 3

Item	Kenaf & Jute		Kapok		Aflatoxin	
	Step I Course	Workshop Session I	Step I Course	Workshop Session I	Step I Course	Step II Course
					Session 1	Session 2
Training period	May 26-30 '86	June 9-12 '86	August 26-28 '86	October 7-9 '86	Jan. 21 - March 1 '85	Feb. 17 - March 10-27 '86
Training hours	6.5 X 5 = 32.5	5.5 X 4 = 22	6.5 X 3 = 19.5	5.5 X 3 = 16.5	6.5 X 30 = 195	6.5 X 14 = 91 6.5 X 15 = 97.5
Regular attendants	2	7	2	8	3	4
Sample used	5	8	2	2		
Training skills	X	X	X	X	X	X
1. Basic measurement			X	X		
2. Division	X	X	X	X		
3. Discrimination	X	X	X	X		
4. Sampling	X	X	X	X		
5. Solutioning						
6. Moisture content analysis	X	X	X	X	X	X
7. Tensile strength test	X	X				
8. Aflatoxin analysis					X	X

研修課程における問題点とその対応策等

項 目	問 題 点	今後の対応策	今 後 の 検 討
<p>1. 研修及び 研修生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修生の研修参加は研修期間に限られ研修準備及び結果の整理がないため研修のみに終わり技術の習得が限定される。 ○ TTCと同じ研修器材がOCSに無いため技術の訓練が不十分である。 ○ 研修にOCS検査官多数の参加が計れなかった。 ○ OCSに被害粒等の限界基準品が設定されていないため選別分析試験結果において個人差が大きい(勤続7~18年検査官) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参加の要請 ○ TTC器材の活用を図る。 ○ 参加の要請 ○ TTC既成の標準品を参考としOCSにおいても整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の専門家がOCSに駐在し常に検査官と接しながら検査及び測定状況を把握した中で研修を効果的に実施並びに品質管理のデータ等を整備する。 ○ OCSに適切な器材を整備又、検査官育成のための研修室を設置し、研修体制を整備すると共に検査官の養成を図る。 ○ 上同 ○ OCSが被害粒等の限界基準品を作成する場合の技術指導を図る。
<p>2. カウンター パート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ カウンターパートが交代し連続性がない。 Mr. Samreng 1985年10月人事異動 Mr. Chinaratana 1986年3月まで Mr. Somsak 1986年4月から 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門技官のカウンターパートを配置し講師の育成を図る。
<p>3. TTCの 活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 殆どOCSの研修生を対象とした研修にのみ利用されている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ TTCの活用は広くタイの農産品の品質管理に使用し技術指導は関係機関の協力のもとにOCSが行う。 なお、農産品以外の品目は各々の所管で行う。 ○ OCSが品質管理について関係機関及び関係団体等の連絡を適切に行う機関を設置した場合技術指導を図る。

Training Course (Agricultural Products)

Course	From	To	Hours
maize step 1	84/ 7/ 9	84/ 7/11	19.5
maize step 1 (continued)	84/ 7/23	84/ 7/31	45.5
sorghum step 1	84/ 8/13	84/ 8/17	32.5
sorghum step 1 (continued)	84/ 8/27	84/ 8/31	26.0
tapioca step 1	84/ 9/25	84/10/ 5	55.0
maize step 2-1	84/10/15	84/10/19	32.5
sorghum step 2-1	84/11/19	84/11/23	32.5
aflatoxin 1	85/ 1/21	85/ 3/ 1	195.0
tapioca step 2-1	85/ 3/25	85/ 3/29	32.5
mung beans step 1	85/ 4/15	85/ 4/26	65.0
mung beans step 2-1	85/ 5/13	85/ 5/24	65.0
maize step 2-2	85/ 6/17	85/ 6/27	58.5
mung beans step 2-2	85/ 7/ 8	85/ 7/19	65.0
workshop 1 (mung beans)	85/ 7/22	85/ 7/25	22.0
sorghum step 2-2	85/ 9/16	85/ 9/24	45.5
workshop1 (sorghum, maize)	85/ 9/25	85/ 9/27	16.5
tapioca step 2-2	85/11/25	85/11/28	26.0
aflatoxin 2-(1)	86/ 2/17	86/ 3/ 7	91.0
aflatoxin 2-(2)	86/ 3/10	86/ 3/27	97.5
fish meal step 1	86/ 3/10	86/ 3/14	32.5
kenaf & jute step 1	86/ 5/26	86/ 5/30	32.5
workshop 1 (kenaf & jute)	86/ 6/ 9	86/ 6/12	22.0
workshop 2 (maize)	86/ 6/24	86/ 6/27	22.0
workshop 2 (sorghum)	86/ 7/15	86/ 7/18	22.0
kapok step 1	86/ 8/26	86/ 8/28	19.5
workshop 2 (mung beans)	86/ 9/16	86/ 9/19	22.0
workshop 1 (kapok)	86/10/ 7	86/10/ 9	16.5

*** TOTAL ***

1212.0

Training Course by Item

Course	From	To	Hours
maize step 1	84/ 7/ 9	84/ 7/11	19.5
maize step 1 (continued)	84/ 7/23	84/ 7/31	45.5
maize step 2-1	84/10/15	84/10/19	32.5
maize step 2-2	85/ 6/17	85/ 6/27	58.5
*** TOTAL ***			156.0

Course	From	To	Hours
sorghum step 1	84/ 8/13	84/ 8/17	32.5
sorghum step 1 (continued)	84/ 8/27	84/ 8/31	26.0
sorghum step 2-1	84/11/19	84/11/23	32.5
sorghum step 2-2	85/ 9/16	85/ 9/24	45.5
*** TOTAL ***			136.5

Course	From	To	Hours
tapioca step 1	84/ 9/25	84/10/ 5	55.0
tapioca step 2-1	85/ 3/25	85/ 3/29	32.5
tapioca step 2-2	85/11/25	85/11/28	26.0
*** TOTAL ***			113.5

Course	From	To	Hours
mung beans step 1	85/ 4/15	85/ 4/26	65.0
mung beans step 2-1	85/ 5/13	85/ 5/24	65.0
mung beans step 2-2	85/ 7/ 8	85/ 7/19	65.0
*** TOTAL ***			195.0

Course	From	To	Hours
kenaf & jute step 1	86/ 5/26	86/ 5/30	32.5
*** TOTAL ***			32.5

Course	From	To	Hours
fish meal step 1	86/ 3/10	86/ 3/14	32.5
*** TOTAL ***			32.5

Training Course by Item

Course	From	To	Hours
kapok	86/ 8/26	86/ 8/28	19.5
*** TOTAL ***			19.5

Course	From	To	Hours
workshop 1(mung beans)	85/ 7/22	85/ 7/25	22.0
workshop1(sorghum, maize)	85/ 9/25	85/ 9/27	16.5
workshop(kenaf & jute)	86/ 6/ 9	86/ 6/12	22.0
workshop 2(maize)	86/ 6/24	86/ 6/27	22.0
workshop 2(sorghum)	86/ 7/15	86/ 7/18	22.0
workshop 2(mung beans)	86/ 9/16	86/ 9/19	22.0
workshop(kapok)	86/10/ 7	86/10/ 9	16.5
*** TOTAL ***			143.0

Course	From	To	Hours
aflatoxin 1	85/ 1/21	85/ 3/ 1	195.0
aflatoxin 2-(1)	86/ 2/17	86/ 3/ 7	91.0
aflatoxin 2-(2)	86/ 3/10	86/ 3/27	97.5
*** TOTAL ***			383.5

Facts-Finding

(Inspection site for exporting Agricultural Products)

Research Commodity	Date	Research Place	
		Loading site	Warehouse (only sampling)
Maize	1984 7 26	1	
Sorghum	" 9 4	1	
Tapioca	" 12 25	1	
Maize	" 12 25	1	1
Maize	1985 2 12		1
Mung-bean	" 4 12		1
Mung-bean	" 6 13	1	
Maize	" 6 26	1	
Sorghum	" 9 11	2	
Maize	" 11 19	1	
Maize	1986 2 13	3	
Kenaf	" 5 2		1
Kenaf	" 6 5		1
Kenaf	" 6 6		3
Maize	" 6 16	1	
Sorghum	" 7 8	1	1
Kapok	" 8 7	1	1
Mung-bean	" 9 4		2
Kapok	" 10 3		2
Total		15	14

研修生の品目別受講時間

Standardization & QC (Agricultural Products)

Commodity Training Course Duration	maize		step 2-1		step 2-2		workshop 1		workshop 2		sorghum		step 2-1		step 2-2		workshop 1		workshop 2		cassia		
	step 1 84/7/9 -7/31 65.0	step 2-1 84/10/15 -10/19 32.5	step 2-2 85/6/17 -6/27 58.5	step 2-1 84/10/15 -10/19 32.5	step 2-2 85/6/17 -6/27 58.5	workshop 1 85/9/25 -9/27 16.5	workshop 2 86/6/24 -6/27 22.0	step 2-1 84/11/19 -11/23 32.5	step 2-2 86/9/16 -9/24 45.5	workshop 1 85/9/25 -9/27 16.5	workshop 2 86/7/15 -7/18 22.0	step 1 84/8/13 -8/31 58.5	step 2-1 84/11/19 -11/23 32.5	step 2-2 86/9/16 -9/24 45.5	workshop 1 85/9/25 -9/27 16.5	workshop 2 86/7/15 -7/18 22.0	step 1 84/9/25 -10/5 55.0	step 2-1 85/3/25 -3/29 32.5					
Attendance (Hrs.)	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	
Mr. Porapote Nanthurapote																							
Mr. Sarzeang Lengpaibool																							
Mr. Chinaratana Sawatdipanee																							
Mr. Sansak Tanasujawat																							
Ms. Jintana Natesatitarn																							
Ms. Nongroot Singhaphachu																							
Ms. Sures Viriyakitpatana																							
Ms. Narra Kongcharoerchittikul																							
Mr. Suchart Arunakul																							
Ms. Khanittha Virattarepanu																							
Mr. Sorit Rajirayong																							
Ms. Petra Kapatthayanon																							
Mr. Rungrit Ekkhao																							
Mr. Aeerachai Nopsamwong																							
Mr. Piyachart Spenagula																							

Standardization & QC (Agricultural Products) 研修生の品目別受講時間

Commodity Training Course Duration	tapioca step 2-2 85/11/25 --11/28 26.0	mung beans				fish meal				kenaf/jute		Total
		step 1 85/ 4/15 -- 4/26 65.0	step 2-1 85/ 5/13 -- 5/24 65.0	step 2-2 85/7/ 8 -- 7/19 65.0	workshop 1 85/ 7/22 -- 7/25 22.0	workshop 2 86/ 9/16 -- 9/19 22.0	step 1 86/ 3/10 -- 3/14 32.5	step 1 86/ 5/26 -- 5/30 32.5	workshop 1 86/ 6/ 9 -- 6/12 22.0	step 1 86/ 8/26 -- 8/28 19.5	workshop 1 86/10/ 7 --10/ 9 16.5	
Attendance (hrs.)												3.5
Mr. Pomrote Mathurapote												22.0
Mr. Saeng Lengpalbool												437.5
Mr. Chinaratana Sawatchaipanee	3.5	33.0	39.5	29.5	22.0	23.0			19.5	16.5		156.5
Mr. Somsak Tavayawet												194.5
Ms. Jintana Natesatitarn												194.5
Ms. Nongroo Siriyaphandu												175.0
Ms. Sree Viriyakitpacana												175.0
Ms. Manra Kongcharoentittikul												126.5
Mr. Suchart Anunakul	26.0											113.5
Ms. Khaittha Virattananaru	26.0											239.0
Mr. Suvit Rujirayong		65.0	65.0	65.0	22.0							217.0
Ms. Patra Kuepithayavan		65.0	65.0	65.0	22.0							51.0
Mr. Rurkhit Furkheo									29.0	22.0		36.0
Mr. Keerachai Nopsawanong											19.5	32.5
Mr. Piyachart Sipsanagula											16.5	

別紙6-1

主要供与器材の利用管理状況調査

利用状況

- ランク A : 頻繁に使用
B : よく使用
C : 時々使用
D : 特定の時期に集中的に使用
E : 現在のところあまり使用されない、
F : 現在のところほとんど使用されていない
G : この一年間全く使用されていない
H : 特別の理由により使用されていない

管理状況

- ランク A : 点検整備が十分行われ、常に使用可能な最良の状態におかれている場合
B : 使用にあたって特段の問題はなく、管理が概ね良好な場合
C : 整備を行えば使用可能な状態に置かれている場合
D : 使用に耐えない状態で放置されている場合

別紙 6 - 2

4. 品質管理部門

供与年度	機 材 名	数 量	利用状況	管理状況	備 考
	D-1 a 直示天びん	1	C + D	A	
	1 b デジタル直示天びん	3	A	A	
	1 c 直示天びん	1	C + D	A	
	1 d 上ざら天びん	1	A	A	
	2 a ラボミル	1	-	-	
	2 b ポールミル	1	-	-	
	2 c 回転粉碎器	1	D	A	
	2 d ロータースピードミル	1	A	A	
	3 冷蔵庫	1	A	A	
	4 ホットプレート	6式	D	A	
	5 a 送風定温乾燥器	2	A	A	
	5 b "	1	C + D	A	
	6 ドラフトチャンバー	5	D	A	
	7 a 振とう器	2	D	A	
	7 b "	1	D	A	
	8 a 溶 鋳 炉 (小)	2	D	A	
	8 b " (大)	1	-	-	

供与年度	機 材 名	数 量	利用状況	管理状況	備 考
	D- 9 計 算 機	4	A	A	
	10 ガラス電極PHメータ	1	D	A	
	11 時 計	5	D	A	
	12 恒温水槽	3	D	A	
	13 施 光 計	1	D	A	
	14 低温恒温水槽	2	D	A	
	15a 真空ポンプ	1	A	A	
	15d "	1	D	A	
	16 ガスクロマトグラフ	1	D	A	
	17 顕 微 鏡	2	D	A	
	18 真空定温乾燥器	1	A	A	
	19 紫外線照射器	1	D	D	
	20 ケイ光付属装置	1	D	A	
	21 ダブルビーム 分光光度計	1	D	A	
	22 ロータリーエバポ レーター	1	D	A	
	23 乾式カラム充填機	1	D	A	
	24 メディカル クリーザー	1	D	A	

供与年度	機 材 名	数 量	利用状況	管理状況	備 考
	D-25 低温恒温器	1	D	A	
	26 コロニー計算機	1	D	A	
	27 フードプロセッサ	2	-	-	
	28 高圧滅菌器	1	-	-	
	29 大型スイング遠心機	1	-	-	
	30a 直熱式脂肪抽出装置	1	D	A	
	30b "	1	D	A	
	31 引張試験器	1	D	A	
	32 穀類分類器	3	A	A	
	33 オートスタイル	3	A	A	
	34 実 験 台	5	A	A	
	35 収 納 棚	2	A	A	
	36 テーブル	4	A	A	
	37 机	10	A	A	
	38 実験用流し台	3	A	A	
	39 テーブル	2	A	A	
	40 上ざら天びん	1	A	A	
	41 電動式検燃器	1	D	A	
	42 トーションバランス	1	D	A	
	43 恒温水槽	1	D	A	
	44 摩擦試験機	1	D	A	
	45 洗たく堅ろう度試験機	1	D	B	

供与年度	機 材 名	数 量	利用状況	管理状況	備 考
	D-46 紫外線ロングライフ フェードメーター	1	D	A	
	47 汗試験機	1	D	A	
	48 標準光源	1	D	A	
	49 織物収縮度試験器	1	D	A	
	50 ヤードセッティング マシーン	1	D	A	
	51 生機検反機	1	D	A	
	52 光電池照度計	1	A		
	53 液体比重計	1	C	A	
	54 乾 燥 器	2	A	A	
	55a 鑑定用鐘板 大	2	A	A	
	55b " 中	2	A	A	
	56a 粒形テスター 大	1	B	B	
	56b " 小	1	D	A	
	57a 三宅式麻袋刺	5	D	A	
	57b 着検用二重管刺	1	D	A	
	58a 容積重計	1	A	A	
	58b "	1	A	A	
	59 ふ る い	1式	D	A	
	60 収集ざら	1式	A	A	
	61 収集びん	300	A	A	
	62a 大豆水分計	5	D	A	

別紙 6 - 6

供与年度	機 材 名	数 量	利用状況	管理状況	備 考
	D-62b デジタル米麦水分計	3	F	A	
	62c 木材水分計	1	D	A	
	63 可動テーブル	4	A	A	
	64 防 震 台	1	A	A	
	65 ビーカー・フラスコ等	1組	A	A	

携行機材

供与年度	機 材 名	数 量	利用状況	管理状況	備 考
	粉碎器（手回し）	1	A	A	
	“（ウイリイ）	1	A	A	
	無錘式上ざら秤ばかり	1	A	A	
	白 度 計	1	A	A	
	グレイナー	1	D	A	
	ケルテックオート	1	A	A	
	発芽試験器	1	A	A	
	落花生水分計	1	D	A	
	クロスピーターミル	1	D	A	
	紙 袋 刺	1	D	A	
	とう精試験器 大	1	F	A	ソルガム用
	“ 小	1	F	A	“
	試料均分器	1	D	A	タピオカ用
	鑑定用照明器	1	A	A	簡 易 型
	発芽試験器	1	D	A	
	ポータブルミシン	1	D	A	
	クロックメーター	1	D	A	

TRADE TRAINING CENTER 機器取扱状況

	A								B								C								D			
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4
D- 1 a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1 b	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1 c	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1 d	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2 a																												
2 b																												
2 c	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2 d	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5 a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5 b																												
6																												
7 a			○																									
7 b							○	○																				
8 a			○																								○	
8 b																												
9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

NOTE: A ステップI
 B ステップII
 C WORKSHOP
 D ステップII

1 Maize
 2 Sorghum
 3 Tapioca
 4 Mung-beans
 5 Kenaf & Jute
 6 Kapok
 7 Fish meal
 8 Aflatoxin

TRADE TRAINING CENTER 機器取扱状況

	A								B								C								D			
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4
D-11 時計				○				○								○												
12 恒温水槽			○					○			○					○												○
13 施光計			○					○			○					○												○
14 低温恒温水槽			○					○			○					○												○
15 a 真空ポンプ	○	○	○	○	○		○	○			○					○												
15 b "	○	○	○	○	○		○	○			○					○												
16 ガスクロマトグラフ								○								○												
17 顕微鏡								○								○												○
18 真空定温乾燥器								○								○												
19 紫外線照射器								○								○												
20 ケイ光付属装置								○								○												
21 ダブルビーム分光光度計				○																								
22 ロータリーエバポレーター								○								○												
23 乾式カラム充填機								○								○												
24 メディカルクリーザー								○								○												
25 低温恒温器								○								○												
26 コロニー計算機								○								○												○
27																												
28																												
29																												

NOTE: A ステップI
 B ステップII
 C WORKSHOP
 D ステップIII

1 Maize
 2 Sorghum
 3 Tapioca
 4 Mung-beans
 5 Kenaf & Jute
 6 Kapok
 7 Fish meal
 8 Aflatoxin

TRADE TRAINING CENTER 機器取扱状況

	A								B								C								D							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4				
D-30a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30b				○																												
31	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
34																																
35																																
36																																
37	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39																																
40	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41																																
42																																
43																																
44																																
45																																
46																																
47																																
48																																

NOTE: A ステップI
 B ステップII
 C WORKSHOP
 D ステップIII

1 Maize
 2 Sorghum
 3 Tapioca
 4 Mung-beans
 5 Kenaf & Jute
 6 Kapok
 7 Fish meal
 8 Aflatoxin

TRADE TRAINING CENTER 機器取扱状況

	A								B								C								D							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4				
D-63	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
64																																
65																																
携行機材																																
粉砕器 (手回し)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
" (ワイリイ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
無錫式上さら俵ばかり																																
白度計																																
グレイナー																																
ケルテックオート																																
発芽試験器																																
落花生水分計																																
クロスピーターミル																																
紙袋刺																																
とう精試験器 大																																
小																																
試料均分器 (タビオカ用)																																
鑑定用照明器																																
発芽試験器 (堅易型)																																
剛度計																																

NOTE: A ステップ I
 B ステップ II
 C WORKSHOP
 D ステップ III

1 Maize
 2 Sorghum
 3 Tapioca
 4 Mung-beans
 5 Kenaf & Jute
 6 Kapok
 7 Fish meal
 8 Aflatoxin

TRADE TRAINING

[MARKETING]

Training Curriculum :

1. Japan Lounge Program : "Knocking the Japanese Door" Series (2 sessions), designed jointly with his counterparts by Mr. K. Aonuma in July and December, 1985.
2. The Seminar on "Export to Japan", designed jointly with Thai Farmers Bank Staff by Messrs. M. Koizumi and K. Yoguchi in October, 1985.
3. Display and Technical Seminar on Can-Making and Canning, designed jointly with his counterparts by Mr. K. Aonuma in July, 1986.

Reports :

1. Some Comments on "Q.C." Activities in Japanese Enterprises, presented to his counterparts by Mr. Masao KOIZUMI in June, 1984.
2. A Comment on the Training Programmes (General), presented to his counterparts by Mr. Masao KOIZUMI in October, 1984.
3. Some Comments upon the Proposed ASEAN Seminar on Japanese Law, presented to the Director of TTC by Messrs. M. KOIZUMI and K. YOGUCHI in September, 1985.
4. Some Ideas Concerning Export Promotion As Well As Export Training Needs in Thailand, presented by Mr. Masao KOIZUMI in November, 1985, to seminar on Export to Japan jointly organized with Thai Farmers Bank.
5. On the Plan to Make a Pragmatic Guidebook to Japanese Market, proposed to TTC Director by Mr. Masao KOIZUMI in November, 1985.

6. *Some Personal Ideas Concerning Export Promotion As Well As Export Training Needs in Thailand,* presented to his counterparts by Mr. Masao KOIZUMI in April, 1986.

Advisory Notes :

1. *A Proposal of TTC's Organizing the Seminar on the White Paper -- How to Achieve Target to Japan in 1986,* submitted to his counterpart by Mr. K. Yoguchi in February, 1986.
2. *On Process for "Holding a Seminar",* submitted to his counterpart by Mr. K. Yoguchi in June, 1986.

Seminar Resumés :

1. *"Characteristics of Japanese Management As a Background of Successful QCC Activities in Japan",* lecture by Mr. M. Koizumi in March, 1985.
2. *"Trade Practice in Japan",* lecture by Mr. K. Yoguchi in October, 1985.
3. *"How to Penetrate Japanese Market",* lecture by Mr. M. Koizumi in October, 1985.

Textbooks and Reference Materials

1. *Documents for the Seminar, "Export to Japan",* prepared jointly with their counterparts by Messrs. M. Koizumi and K. Yoguchi in October, 1985.
2. *Reference materials for the Japan Lounge Program,* prepared jointly with his counterparts by Mr. K. Aonuma in July and December, 1985.
3. *Technical Information book for the Seminar on Can-Making and Canning,* prepared jointly with his counterparts by Mr. K. Aonuma in August, 1986.

[INTERNATIONAL FINANCE & FOREIGN EXCHANGE]

Training Curriculum :

1. The Seminar on Export Finance, prepared jointly with his counterpart by Mr. K. Yoguchi, in July, 1986.

Reports :

1. Review of New Chance of Thai Export to Japan at the Time of Higher Yen, prepared and submitted to his counterpart by Mr. M. Koizumi in April, 1986.

Advisory Notes :

1. A Proposal of TTC's Organizing a Seminar on the Topic of "How to Finance in order to Promote Thai Export", prepared and submitted to his counterpart by Mr. K. Yoguchi.
2. A Proposal of TTC's Joining IFCT Plan in Co-organizing a Seminar on the Topic of "Small and Medium-Sized Companies' Credit System in Promoting the Export Industry", prepared and submitted to his counterpart by Mr. K. Yoguchi.

Seminar Resumés :

"Japan's Import Finance and Thai Export Promotion", lecture by Mr. K. Yoguchi in July, 1986.

Textbooks and Reference Materials :

1. Reference Materials for the Seminar on Export Finance, prepared jointly with his counterpart by Mr. K. Yoguchi in July, 1986.

Reports :

1. A Progress Report of the Preparation for Setting-up of a Commercial Japanese Language Course
-- attached : A Report on Preparation for Commercial Japanese Course prepared by NTTC in December, 1984 --,
prepared and submitted by Mr. K. AONUMA, in January, 1985.
2. An Interim Report on Feasibility Studies for Setting-up of Intermediate Japanese Course at TTC,
prepared and submitted by Mr. K. NAKASHIMA in November, 1985.
3. A Summary Report of Japanese Language Teaching Institutions in Bangkok,
research-made and submitted by Mr. K. NAKASHIMA in December, 1985.
4. A Final Report on Practical Japanese for Beginners Course,
prepared and submitted by Mr. K. NAKASHIMA, in January, 1986.

Course Resumés :

1. Practical Japanese for Beginners, prepared for the 20-week course titled by Practical Japanese for Beginners conducted by Mr. K. NAKASHIMA in June, 1985.
2. Curriculum Tentatively designed for an Intermediate Business Japanese at the Trade Training Center, prepared and submitted by Mr. K. NAKASHIMA in September, 1985.
3. The Outline of Intermediate Business Japanese Course at The Trade Training Center in The Kingdom of Thailand, prepared and submitted by Mr. K. NAKASHIMA in January, 1986 as a Final Report on Feasibility Studies for Setting-up of Intermediate Business Japanese Course at TTC.

Textbooks and Similar Documents :

1. *Sub-Texts for the Practical Japanese for Beginners Course, prepared by Mr. K. NAKASHIMA in 1985.*
2. *Draft Papers for a Textbook for the Proposed Intermediate Business Japanese Course at TTC, prepared by Mr. K. NAKASHIMA in December, 1985.*

[EXHIBITION & TRADE FAIRS]

Reports :

1. *An Advisor's Report on ASEAN Trade Fair,*
prepared and submitted by Mr. Hiroaki AZUMA in August, 1984.
2. *Trade Fairs for Export Promotion - A Text for the Future Activities of*
Holding Trade Fairs -
prepared and submitted by Mr. Hiroaki AZUMA in October, 1984.
3. *Basic Concept on Questionnaires,*
prepared and submitted by Mr. Iwao KOYAMA in August, 1985.
4. *Exhibitions for Export Promotion - Basic Concept Concerning Exhibition*
and Concerning the Permanent Exhibition Activities -
prepared and submitted by Mr. Iwao KOYAMA in September, 1985.
5. *Reference Papers for Exhibitor's Guide - The Overseas Trade Fair*
Exhibiting Regulations, The Overseas Trade Fair Exhibits Packaging and
Transportation Rules, and The Overseas Trade Fair Exhibiting Guide -
prepared and submitted by Mr. Iwao KOYAMA, in October, 1985.
6. *Concerning the International Trade Fair to Be Held in Thailand,*
prepared and submitted by Mr. Iwao KOYAMA in October, 1985.
7. *Contents of Business Handbook for Overseas Trade Fair Participation*
- Useful Check Lists for Participants in Overseas Trade Fairs -
prepared and submitted by Mr. Iwao KOYAMA in November, 1985.
8. *Some Aspect of JETRO Exhibition - My 30 years experience with JETRO -*
prepared and delivered by Mr. Iwao KOYAMA in November, 1985.

STANDARDS AND QUALITY CONTROL

[INDUSTRIAL PRODUCTS : TEXTILE]

Reports :

1. A Report on Technical Cooperation for Standards and Quality Control on Industrial Product for the Period of May to July, 1984, prepared and submitted by Messrs. T. MIKI and K. SAGISAKA.
2. A Report on the 1985 Technical Cooperation in the field of Standards and Quality Control (Industrial Products : Textile) Implemented During the Period April 27 to July 19, 1985, prepared and submitted by Messr. M. KATO and I. TSUKAGOSHI.
3. The 1986 Technical Guidance Program on Industrial Product Inspection and Testing : August 4 to November 14, 1986, prepared and submitted to Director of TTC by Messr. T. MIKI and I. TSUKAGOSHI in August, 1986.

Course Resumés :

1. The Training Program for the TTC Project Counterparts on Industrial Product Inspection and Testing for the Period of June and July, 1984, prepared and conducted by Messrs. T. MIKI and K. SAGISAKA in June and July, 1984 .
2. The Workshop Program on Standardization and Quality Control for Silk and Fabric (July 19 - 20, 1984), conducted by their counterparts under the guidance of Messr. T. MIKI and K. SAGISAKA in July, 1984 .
3. The 1985 Training Program for Textile Inspectors and Lab. Testers :
3-1 Step I Training Course May 6 to 24 (15 days)
3-2 Step II Training Course June 10 to July 10 (23 days)
4. The 1986 Training Program for Textile Inspectors and Lab. Testers, prepared and conducted by Messr. T. MIKI and I. TSUKAGOSHI in August to November, 1986 :

- 4-1 Preliminary Review Course : August 18 to 29 (10 days)
 - 4-2 Step III Training Course : September 1 to 26 (20 days)
5. The Workshop on Thai Silk, 13 - 16 October, 1986, conducted by their prospective Trainers under the Guidance of Messr. T. MIKI and I. TSUKAGOSHI in October, 1986.

IN THE FIELD OF STANDARDS AND QUALITY CONTROL
(INDUSTRIAL PRODUCTS : TEXTILE)

Step I Training Course

1. General inspection (Quality inspection of silk fabrics)

(1) Quality inspection of export silk fabrics in Japan
using color slides

(2) Introduction of fabric inspection equipment

- * Specification
- * Operating method
- * Maintenance

- Yard setting machine
- Fabric inspection machine
- Lunometer
- Lux meter

(3) Inspection method

- * Turning-over method
- * Inspection by using machine
- * Measurement of width, length, number of thread and mass of fabric
- * Defect of fabric
(Yarn, weaving, dyeing and printing defects)
- * Sampling method for each inspection item

2. Testing on physical and chemical analysis

(1) Testing methods of textile in Japan using
color slides

(2) Introduction of testing equipment

- * Specification
- * Operating method
- * Maintenance

- Torsion scale
- Rubbing meter
- Yarn twist tester
- CIE Standard light source
- Tensile strength tester
- Perspiration meter
- Fadeometer
- Fabric shrinkage tester

(3) Introduction of chemicals

- * Characteristics
- * Handling
- * Adjustment

(4) Analysis on individual items

- * Identification of a textile fiber
(Silk, wool, cotton, rayon, acetate, polyester, nylon, etc.)
 - Burning test
 - Microscopic test
 - Staining test
 - Solubility test
- * Textile binary mixture quantitative chemical analysis
(mixture ratio; Silk/cotton, rayon, acetate, polyester, nylon, etc.)
 - Mechanical method
 - Dissolution method
- * Yarn size
- * Number of twist
- * Mass per unit
- * Number of thread per unit length
- * Introduction of testing methods of color fastness for the trainees
e.g. color fastness to washing, rubbing, perspiration, etc.

Step II Training Course

1. General inspection (Quality inspection of silk fabrics)

(1) Explanation of defect and defects II:

- 1) Fabric defects made in weaving process
- 2) Fabric defects made in degumming process

(2) Training of standard inspection methods of turning-over inspection and mechanical inspection

(3) Training trainees to develop selection ability of qualified fabrics in inspection practices

2. Testing: physical and chemical analysis of fabrics

(1) Textile binary mixture quantitative chemical analysis:

Dissolution method;
two-fiber mixtures and three-fiber mixtures

(2) Color fastness tests:

- color fastness to washing
- color fastness to rubbing
- color fastness to perspiration
- color fastness to carbon arc lamp light

(3) Physical tests of fabrics

- number of twist
- shrinkage of fabrics
- tensile strength
- tearing strength

Step III Training Course

1. General inspection (Quality inspection of silk products)

(1) Defects of products

(2) Inspection method

2. Testing: physical and chemical analysis

(1) Color fastness test to dry cleaning

(2) Physical Test

- Yarn slippage resistance
- Seam strength

Training Course(Industrial Products)

Course	From	To	Hours
Step I	84/6/4	84/7/18	143.0
Workshop I	84/7/19	84/7/20	13.0
Step I(review)	85/5/10	85/5/24	71.5
Step II	85/6/10	85/7/12	156.0
*** TOTAL ***			383.5

Training Course by Category

(step I & step II training)

Course	From	To	Hours
Step I	84/6/4	84/7/18	143.0
Step I(review)	85/5/10	85/5/24	71.5
Step II	85/6/10	85/7/12	156.0
*** TOTAL ***			370.5

(workshop)

Course	From	To	Hours
Workshop I	84/7/19	84/7/20	13.0
*** TOTAL ***			13.0

